

II

履修概要

1 入学から卒業まで	22
2 履修登録	46
3 授業	48
4 単位制	53
5 学修成果	57
6 学修状況チェックシステム	62
7 学籍・修業年限・学費	65
8 学生サポート	69

1 入学から卒業まで

お茶の水女子大学では、確かな未来を担う人間を育成するために、学生が自律性と協調性を育み、論理的思考力と創造的探究心を習得できるよう、さまざまな教育方法を取り入れています。

とくに教育の基本をなす教養教育の特色は、「堅固な基礎的知識」の教授と「21世紀型リベラルアーツ教育」ですが、本学のリベラルアーツ教育は、問題を発見し、それを解決する能力を習得するお茶の水女子大学固有の教育プログラムで、既存の学問分野を越えた知識と学問の手法を提供します。

また、専門教育では、一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応できるよう、それぞれの学部・学科ごとにプログラムを設けた「複数プログラム選択型」教育を平成23年度から新設致しました。より一層、学修の効果を期待しています。

本学では、上記目標を達成するために、1「コア科目」、2「専門教育科目」、3「自由に選択して履修する科目」の大きく3つの学習区分が設定されており、その中で必修科目・選択科目が配置されています。

なお、学生は本学に原則として4年以上在籍し、各自の所属する学部のガイドラインに従って、124単位以上（文教育学部人間社会科学科が開設する総合人間発達科学専修プログラムを選択する場合には、135単位以上、生活科学部食物栄養学科については、138単位以上）の卒業要件単位を充足してください。

【学部・学科・主たるプログラムの構成】

文教育学部	人文科学科	哲学・倫理学・美術史プログラム、比較歴史学プログラム、地理環境学プログラム
	言語文化学科	日本語・日本文学プログラム、中国語圏言語文化プログラム、英語圏言語文化プログラム、仏語圏言語文化プログラム
	人間社会科学科	社会学プログラム、教育科学プログラム、総合人間発達科学専修プログラム、心理学プログラム
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学専修プログラム、音楽表現専修プログラム
	人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学プログラム
理 学 部	数学科	数学プログラム
	物理学科	物理学プログラム
	化学科	化学プログラム
	生物学科	生物学プログラム
	情報科学科	情報科学プログラム
生活科学部	食物栄養学科	食物栄養学専修プログラム
	人間・環境科学科	人間・環境科学プログラム
	人間生活学科	発達臨床心理学プログラム、生活社会科学プログラム、生活文化学プログラム

(1) コア科目

コア (core) とは芯という意味です。コア科目は、これからの学修・研究における社会的関心が高く現代世界を理解するうえで重要と思われる問題領域や視点を核とし芯 (コア) となるべきものを、学生が主体的に模索し育成する際の一助となるよう設定されています。科目として、**文理融合リベラルアーツ**、**基礎講義**、**情報**、**外国語**、**スポーツ健康**に区分されます。(参考) 文教育学部－文教育学部履修規程P.226、理学部－理学部履修規程P.248、生活科学部－生活科学部履修規程P.259

① 文理融合リベラルアーツ

1. 「21世紀型文理融合リベラルアーツ」とは

学際的、実践的な力を身につけることで専門力を活かした進路を開拓するための教育プログラムです。基礎力とともに、知的な自由さを持った女性を創ることを目的としています。

本学HP：<http://www.ocha.ac.jp/la/>

お茶の水女子大学から世界に発信する文理を融合した学びで多様な進路を切り拓く

21世紀は、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が並行して進んでいます。そこでは、私たちが学ぶ知識は、専門的でないと役に立ちませんし、同時に国や文化が違う相手にも伝える必要があります。

これまで大学では、専門教育の前段階として、教養教育を行ってきました。現代は、高度な専門教育を支えこれを使いこなすために、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を養う必要があります。知識そのものの基礎であり、生涯をとおして、学ぶ力をうることが、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」の目的です。



文理を融合した学びを

わたしたちを取り巻く世界は、自然であれ技術であれ社会であれ、さまざまな要素が複雑に絡みあっています。大学では、専門的な学術というナイフで、複雑な現象を解析することを学びます。しかし、全体を展望するには領域を横断した知識が必要になっています。文系の人にも科学技術の理解が、理系の人にも人文社会の理解が不可欠になっています。文理融合リベラルアーツを学ぶことによって、教養教育（リベラルアーツ）の科目と専門の科目との間に連関が生まれ、領域を横断した視野が獲得されます。

事象を科学の眼で見つめ直すこと、歴史（成り立ち）から理解すること、表現の意味を考えること。それらは相互に結びついて、わたしたちのものの考え方に新しい光を投げかけてくれます。その知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面で遭遇する困難を突破する力を与えてくれます。ひとりひとりが生涯にわたって生き活きと生きていくための力となるのが「お茶大リベラルアーツ」です。



現代世界のカギとなる5つのテーマ

プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ：生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダーに沿って、系列科目群をつくり、自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多面的に学びます。

これにより、高度な専門教育を支え、使いこなすための領域横断的な視野、変化に対応する判断力、発信・交渉能力など、生涯をとおして、自在（リベラル）に使える技（アーツ）を育成します。授業科目には、「講義」と「リベラルアーツ演習」の2種類があり、これを組み合わせて、知識と実践力を高めます。「講義」は、2年間を1クールとして、当該系列の科目が開講されます。「講義」では、テーマに立脚した課題学習を通じて、学問分野の基本を習得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的にします。このほか、学外での体験学習やボランティア活動を中心にした実習も設け、実践力を養います。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知

識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。



リベラルアーツ演習

少人数の演習形式で行われ、文献講読、フィールドワーク、口頭発表、討論などを組み合わせた半期編成の授業です。聞き・読み・語り・計り・作るという作業を通じて、読解・思考・コミュニケーションに必要な力と技術を養成します。文理融合リベラルアーツの5つのテーマに関連し毎年開講される科目もありますが（注）、より視野を広くとり、3つの学部の専任教員が自由に対象やテーマを設定し、一定の切り口（観点・分析方法）にそって、授業を設計・運営します。文系・理系双方の学生が参加し、教員やまた学生とともに、新たなチャレンジをする授業をめざします。（履修方法は3を参照）

（注）「地図を読む」「おいしさのサイエンス」「トランス・サイエンス論入門」「手話学入門」

専門力を活かした多様な進路を切り拓く

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文科学、社会科学、自然科学の3つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ、可能なのです。大学1～2年生の段階で「文理融合リベラルアーツ」によって学際的で実践的な力をつけることによって、専門力を活かした多様な進路が切り拓かれます。

2. 履修方法



文理融合リベラルアーツ科目群は、コア科目の中のグループとして設定され、コア科目の単位として認定されます。同じ系列の科目のうち、任意の4科目（8単位）以上を履修しかつ文理融合リベラルアーツの学修ポートフォリオを提出した場合に、申請に基づき、成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

また原則として、「講義」科目は月曜・水曜の1～2限、3～4限および金曜の3～4限に開講され、「演習・実習・実験」科目は前学期の月曜・水曜の3～4限に開講されます。1、2年次に受講しやすいような設計となっていますが、受講年次の制限はありませんので、3、4年次も含めて計画的に履修できます。

「講義」科目には一部の例外（「文化の記号学」等）を除いて、履修者の制限はありませんので、自分の希望する講義に出席し、履修登録を行ってください。

「リベラルアーツ演習」科目および一部の「実習」科目は、履修者数の上限を設けている場合があります。特に「リベラルアーツ演習」科目は、履修者の上限を原則20名としているため、年度初めの初回ガイダンスのあとに履修抽選を行います。この抽選については、1年生の希望者を優先します。履修抽選にあたっては、第1希望から第3希望まで申請することが可能ですので、指定された期日までに、Web履修抽選申請入力を行ってください。

抽選を実施する際は、掲示板や学生ポータルサイト等で、日程や詳細を周知しますので履修希望者は必ず確認してください。

3. 5つのテーマと開講科目一覧

生命と環境

生命を守るための環境への配慮（認識、働きかけetc.）を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。

前世紀、空前の環境ブームが起り、生存の場としての環境の重要性が認識され、人々は環境との良好な関わりを保つことこそが、生命活動の確保に欠かせないことを知りました。

生命と環境との関わりを深く理解し、その上で新たなる共生の方法を創成することが、21世紀を生きる我々に課せられた重大な使命であると考えられます。

「生命と環境」の科目群では、実体験を通して多くの知識に触れることを重視しています。学問の緒に着いた学生にとって重要なことは、まずは経験と、体験です。これらを通して、「知識の引き出し」を増やし、知的好奇心を育むことだと考えます。これをもとに、生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」敵視野の導入を踏みます。

●生命とは何か（生命と環境1～4）

現代科学における生命像、生命倫理、生物としての人とはどのようなものか、という問題を取り上げ、生命を多角的に捉えることを目指します。

●生命を取り巻く環境：自然環境（生命と環境5、6）

ヒトの営みとは無関係に存在する環境（自然環境）を取り上げ、天体としての地球とそこで繰り返される多様な環境の出現を扱います。

●生命を取り巻く環境：文化環境（生命と環境8、9）

ヒトとの関わりのもとで育まれる環境（文化環境）を取り上げ、ヒトとの文化の多様性とそれを育む環境の多様性、地域と風土、さらにはそれらとの共生の問題を扱います。

●生命・環境を「体験する」（生命と環境21、22）

湾岸生物教育研究センター（千葉県館山市）での合宿実習を通し、生命誕生のリアルタイム体験、海浜生物環境のフィールドワーク等を経験します。あらかじめ大塚キャンパスでの予備実習（顕微鏡観察の基礎等）を行うことで、初心者でも実習に参加できます。

系列1 生命と環境		
(講義)		(単位)
生命と環境1	生命の科学	2
生命と環境2	生命倫理と法	2
生命と環境3	多様性生物学	2
生命と環境4	生物人類学	2
生命と環境5	生命と環境の化学	2
生命と環境6	惑星地球の科学	2
生命と環境8	文化と環境	2
生命と環境9	地域と風土	2
(実習)		(単位)
生命と環境21	基礎生命科学（実習）	2
生命と環境22	海洋環境学ダイビング（実習）	2



色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、人間（生物）は自然界や社会的、文化的情報をいかに認識、受容し、利用していくのか、また社会的、文化的情報として蓄積していくかを探求し、広く人間と自然、そして社会との相互作用についての理解の視点を養います。

色・音・香の感覚を生み出す本体は物理学や化学を使って自然科学的に説明できるものです。しかしその感覚は、人や生物がそれらを受容し、認識することではじめて成立します。最初の過程は生物学、生理学、心理学的なものですが、その作用や影響は自然科学的であるだけでなく、社会、文化的な分野に広く及びます。色・音・香は、服飾、住居、食物といった私たちの生活様式や文化に大きく関わっていることはいうまでもなく、音楽、美術などの芸術、さらには宗教、心理、発達といった人間の内面や行動様式にも大きな影響を与えているのです。

講義科目は、自然・物質としての色・音・香を取り扱う（自然科学系）4科目（色・音・香1～4）、人間・感性・文化といった視点（人文科学系）からの4科目（色・音・香5～8）、物質・環境と人間生活といった視点（文理融合）（色・音・香9～10）からの2科目からなります。

リベラルアーツは、学び方を学ぶとともに、幅広い知識、人生観を養うためのものです。そして皆さんがこれから専門性を高め、深く学ぶための基礎にもなります。

感性とモチベーションを高め、楽しく学んでいきましょう。

系列2 色・音・香	
(講義)	(単位)
色・音・香1 分子から見た色と香り	2
色・音・香2 生命と色・音・香	2
色・音・香3 色・音・香の物理学	2
色・音・香4 コンピュータが創る色と音	2
色・音・香5 情緒と発達の心理学	2
色・音・香6 色・音・香と生活文化	2
色・音・香7 舞踊における色・音・香	2
色・音・香8 宗教と色・音・香	2
色・音・香9 おいしさと色・音・香	2
色・音・香10 知覚認知と環境デザイン	2



生活世界の安全保障

私たちの生活を脅かす危険。そして、危険を克服し、安全を回復・維持する努力。人間社会の営みを危険と安全の相克としてとらえ、私たちの生き方や命のあり方を見つめ直します。

人間の生活世界には、日常の衣食住にまつわる事件・事故から、大災害や戦争のような脅威まで、多様な危険がひそんでいます。私たちは、これらの多様な危険に対処し、安全に生活を送るために、さまざまな社会的・技術的・文化的な措置を作り出してきました。しかし、そうした措置が、かえって危険を増幅したり、抑圧や不平等を招いてしまうこともあります。また時代が進むにつれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、グローバリゼーションの中で新たな脅威が生まれたりもしています。この系列の科目では、安全を守るために何が必要なのか、を考えることを通して、社会、技術、文化の相互関係をとらえ直し、同時に生命としての人間のあり方を考察します。

●日常生活の安全保障（生活世界の安全保障1～3）

現代はリスク社会だと言われるように、日々の暮らしの中にも、多くの危険がひそんでいます。労働、家族、情報社会などの観点から、生活の安全を維持・回復するしくみについて考察します。また、そうした社会的な取り組みが歴史的にどのように行われてきたのかについて、振り返って考えます。

●グローバリゼーションの中の安全（生活世界の安全保障4）

グローバル化する現代世界では、かつてとは異なる新たな危険が生じることがあり、その対応にもグローバルな視点が求められています。暴力、戦争、貧困と開発、公害、化学物質、資源など、国境を越えた諸問題を、安全保障の文脈で学びます。

●安全の基礎条件（生活世界の安全保障7～10）

人間の生活を守る基礎的な条件は、そもそも何なのでしょう。人間が存在する物質世界の性質、生命体としての人間、健康維持、生活環境といった問題点から、危険と安全を考察します。また、社会の中で脅威を受けやすい存在である弱者に注目し、人間生活の安全を再考します。

●NPO団体での体験就業学習（生活世界の安全保障23実習）

系列3 生活世界の安全保障		
(講義)		(単位)
生活世界の安全保障1	生活世界と法	2
生活世界の安全保障2	情報社会の安全保障	2
生活世界の安全保障3	リスクの社会史	2
生活世界の安全保障4	平和と暴力	2
生活世界の安全保障7	現代物質文明の履歴	2
生活世界の安全保障8	ゲノム時代の健康管理	2
生活世界の安全保障9	水の安全保障	2
生活世界の安全保障10	社会的弱者の存在論	2
(実習)		(単位)
生活世界の安全保障23	NPOインターンシップ(実習)	2



ことばと世界

人間の取り巻く世界（人間社会や自然界）を、人間は、どのようにして記述し、どのように伝えてきたのでしょうか。自然言語、数学言語、さらには、コンピュータ言語などの仕組みと働き、および、記述された世界について、多面的に考えていきます。

“ことば”は世界とどのような関わりを持つのでしょうか。“ことば”は何を表し、我々はそれによって何を表現しているのでしょうか。この系列では、次のようなカテゴリーから考えていきたいと思えます。

●ことばの理論（ことばと世界1～3）

言語そのものに関する議論です。言語の理論は高校で習う「文法」だけではありません。より抽象化された論理学、言語の使われ方を通して社会を考える言語社会学、乳幼児が言語を獲得していく過程を扱う発達言語学、自分の言語ではない第二言語を習得していく過程を分析する言語習得論など、いろいろなジャンルが存在します。

●ことばを読む（ことばと世界4～6）

文学作品を中心とした、言語による表現を解説します。しかし必ずしも対象は「文学」に限定される必要はありません。新聞記事であれマンガであれ、言葉で表現されたものは、時に著者本人も意図しないような何かを表してしまっているものだからです。高校「国語」とは違った流儀の「読み方」が展開されていきます。

●自然を記述することば（ことばと世界7、8）

科学とは、実は“ことば”で自然を記述する行為のことです。そこでは我々の日常会話とはもちろん違ったレベルの“ことば”が必要となります。数学、物理学、化学などがいったいどのような語り方を考案することによって自然に迫っていくのか、具体例を通して考えて行きます。文系の人も、「自分は理系ではないから・・・」と尻込みせずに、日常的感覚が大きく更新される体験を味わってください。

●情報としてのことば（ことばと世界10～12）

情報とは現実世界をあらわす“ことば”のことです。ヒトは情報を介して世界を知る生物です。膨大な情報を処理しなくては、世界の実像を知ることはできません。その意味で、情報学は諸科学の知の基礎をなしています。また、情報化時代における生活の基礎をなす「作法」としての情報能力を養うことも、このカテゴリーの目的の一つとなっています。

系列4 ことばと世界	
(講義)	(単位)
ことばと世界1 日本語論	2
ことばと世界2 言語の習得と発達	2
ことばと世界3 論理学	2
ことばと世界4 文化の記号学	2
ことばと世界5 日本文学	2
ことばと世界6 海外の文学	2
ことばと世界7 数理のことば	2
ことばと世界8 自然のことば	2
ことばと世界10 グローバル化社会を生きる	2
ことばと世界11 文法と意味	2
ことばと世界12 知能環境論	2



ジェンダー

性別に関係なく充実した幸福な生活を営める社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学ぶ、ジェンダー視点の導入です。それによって在学中の専門分野の研究に新しい視野を吹き込み、卒業後の進路においては新しい知の担い手として、イキイキと活躍する国際人になりましょう。

「人は女に生まれえない、女になる」とシモーヌ・ド・ボーヴォワールが語ってから半世紀以上たっていますが、まだまだ世界の仕組みは「女」になったり「男」になったりするように人々を誘導しています。そう、ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別です。そして少子高齢化社会に突入している日本では、また人やモノやカネが国境を越えて移動しているグローバル化の時代には、ジェンダーは以前よりもっと巧妙にわたしたちの人生や生活のなかに入り込んでいます。他方で、「愛する」かたち（セクシュアリティ）の多様性や「産む」ことにまつわるテクノロジーの進展は、自由や解放とともに、反発や問題の複雑さももたらしています。今を生きるジェンダー学を学びましょう。

●政治経済と人間（ジェンダー1、2、8）

市場経済の進展がジェンダーにまつわってケアや福祉や消費や家庭経済をどのように変容させているのか、また家庭や社会のなかの暴力がジェンダーの視点でどう法制化されているかを考えます。

●文化メディア（ジェンダー3、4）

映画や美術や文学やマンガやミュージックなどのポップカルチャーが、ジェンダーやセクシュアリティをどう描いているのかを考えます。『タイタニック』や『冬ソナ』で泣いているあなたは誰？

●グローバル化（ジェンダー5、6）

グローバル化はどのように国境を越えてジェンダーの仕組みを変えるのか、またローカルな文化（たとえばイスラムのヴェール）はどのように国境を越えて政治的意味をもつことになるかを考えます。

●テクノロジー（ジェンダー9）

生殖科学はわたしたちに何をもたらすのでしょうか、また従来の科学の枠組にはどんな前提があったのでしょうか、そして一見、無関係に見えるインターネットとジェンダーの関係などを考えます。

系列5 ジェンダー	
(講義)	(単位)
ジェンダー1 女性史・男性史とジェンダー	2
ジェンダー2 グローバル経済とジェンダー	2
ジェンダー3 文化メディアとジェンダー	2
ジェンダー4 アートとジェンダー	2
ジェンダー5 宗教文化とジェンダー	2
ジェンダー6 グローバル化/ローカル性とジェンダー	2
ジェンダー8 政治・政策とジェンダー	2
ジェンダー9 テクノロジーとジェンダー	2



② 基礎講義

基礎講義は、大学での勉学や社会生活で必要となる基本を学ぶ科目です。文理融合リベラルアーツの講義科目が課題に沿った学習であるのに対して、基礎講義は学問分野の体系にそって学ぶことで基礎力を育成します。1 - 2年次に受講しやすいように原則として月、水、金曜の1・2限、3・4限に開講されますが、3 - 4年次に学ぶことで基礎力を広げることができます。

科目一覧

科目	単位	科目	単位	科目	単位
哲学	2	マクロ経済学入門	2	総合コース	2～4
現代心理学	2	基礎微積分学	2	お茶の水女子大学論	2
法学Ⅰ（日本国憲法）	2	基礎線形代数学	2	防災・危機管理	1
法学Ⅱ（法学入門）	2	統計学	2	自然災害に対する防災・減災	1
法と文学	2			学修ポートフォリオ入門	1
政治学入門	2			自然科学課題研究支援プログラム	1
ミクロ経済学入門	2				

③ 情報

情報教育科目の「メディアリテラシ(1)(2)」では、大学における教育・研究活動で必要となる基本的な情報スキルや知識に加え、自立した人間として知識基盤社会で活躍するために最低限身に付けておきたい情報に関する知識を講義します。

「情報科学(1)(2)」では、情報に関する一般的な知識を講義します。「情報処理学(1)(2)」では、情報処理技術の歴史、現状及びその基盤となる学問等を概説します。「情報処理演習(1)(2)」は、すべての学部学科において1年次第1学期、第2学期の必修科目です。この科目では、現代の情報社会における情報の意味を考察し、情報を取り扱う態度を学びます。また、情報ツールを自ら構築し、使いこなし、各自の専門領域に取り入れる手法を、初歩から学んでいきます。学科を基本としたクラス分けで開講されており、学部ごとに取り扱う題材が異なります。必ず指定されたクラスを1年次に履修してください。複数のクラスを履修することはできません。

「プログラミング演習1」では、一般的なプログラミング言語を用いて、コンピュータプログラミングの基礎を学びます。異なるプログラミング言語を学ぶ複数のクラスが開講され、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や用いるプログラミング言語、定員等については、シラバスを参照してください。

「プログラミング演習2」では、コンピュータプログラミング入門と、コンピュータを使って問題を解くことを考えます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習1」では、自分専用のパソコンを使って、コンピュータの活用とプログラミングの初歩を学びます。与えられた環境でプログラミングだけを学ぶのではなく、必要なツールを入手し、自分用のパソコンをカスタマイズすることもあわせて修得します。毎回の授業に、各自がパソコンを持参してください。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「コンピュータ演習2」では、コンピュータにまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

「情報学演習1」及び「情報学演習2」では、情報にまつわるいくつかのトピックについて学びます。複数のクラスが開講される場合には、在学中にどれかひとつのクラスのみ履修できます。定員が定められているクラスについては、初回の授業に出席者の中から受講者を決定します。各クラスの授業内容や定員等については、シラバスを参照してください。

授業科目一覧

科目	単位	備考	科目	単位	備考
メディアリテラシ(1)(2)	各1		プログラミング演習2	2	定員あり
情報科学(1)(2)	各1		コンピュータ演習1	2	定員あり
情報処理学(1)(2)	各1		コンピュータ演習2	2	定員あり
情報処理演習(1)(2)	各1	文A～文G、理A～理E、生活A～生活D	情報学演習1	2	定員あり
プログラミング演習1	2	定員あり	情報学演習2	2	定員あり

④ 外国語

本学で現在コア科目として開設されている外国語は以下の10言語です。

英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、朝鮮語、スペイン語、イタリア語、アジア諸語(アラビア語・トルコ語)

他に文教育学部共通科目として、ギリシャ語、ラテン語があります。必修単位として必要な外国語の種類と単位数は、学部・学科別に以下のとおり定められており、各外国語の授業科目の内でも必修単位として認められる科目と認められない科目があります。必修単位に認められる科目は各外国語の授業科目表に*印、**印、***印で示されています。(ただし、**及び***については履修条件に従うこと。)これらは学部・学科によって異なるので注意してください。また、履修に条件を設けた科目があるので、各外国語の授業科目表の履修条件欄にも注意してください。

授業科目別一覧

学部・学科		必修となる外国語の種類及び単位数
文 教 育 学 部	人文学部 言語文化学科	外国語の必修単位数は20単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、二つの言語についてそれぞれ8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	グローバル文化学環	外国語の必修単位数は20単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語を第一外国語とし、その中から一つの言語について8単位修得すること。残りの12単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。ただし第一外国語として選択した言語で満たすことのできる外国語の必修単位の合計は12単位が上限である。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	人間社会科学科 芸術・表現行動学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分は「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
理 学 部	物理学科 化学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。なお、「専門英語」の「物理英語(1)(2)」(物理学科)は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」に充てることができる。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	生物学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について12単位修得すること。なお、「専門英語」の「生物学外書講読」は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」に充てることができる。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
	数学科 情報科学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語を8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。なお、「専門英語」の「数学英語」(数学科)、「英文講読」(情報科学科)は、コア科目外国語(必修)英語の「中級英語Ⅱ(1)(2)」に充てることができる。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目の必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。
生活科学部	食物栄養学科 人間・環境科学科 人間生活学科	外国語の必修単位数は12単位である。英語・ドイツ語・フランス語・中国語のうち、一つの言語について8単位修得すること。残りの4単位は、英語・ドイツ語・フランス語・中国語、もしくはロシア語・朝鮮語・スペイン語・イタリア語・アジア諸語から修得すること。外国語科目の修得単位数のうち、必修単位数を超える分はコア科目必修単位または「自由を選択して履修する科目・単位」として卒業に必要な履修単位数に組み入れられる。

● I 英語

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*基礎英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	基礎的英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の2分野を履修する。	同一年度で I・II を連続して履修すること。
*中級英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	中級レベルの英語力を充実させる。reading/listening、speaking/writing の2分野を履修する。	「基礎英語 I・II」の単位を修得していること。同一年度で I・II を連続して履修すること。
**英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	3～4	speaking, writing を中心に中級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語 I・II」「中級英語 I・II」の単位を修得していることが望ましい。
**英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)	各1	3～4	speaking, writing を中心に上級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語 I・II」「中級英語 I・II」の単位を修得していることが望ましい。
**英語プレゼンテーション I(1)(2)・II(1)(2)	各1	3～4	自分の考えや研究成果を発表するための英語力を養成する。	「基礎英語 I・II」「中級英語 I・II」の単位を修得していることが望ましい。
**グローバル・イングリッシュ I(1)(2)・II(1)(2)	各1	3～4	世界の多様な英語に触れ、コミュニケーション技術を修得する。	「基礎英語 I・II」「中級英語 I・II」の単位を修得していることが望ましい。
** Advanced Communication Training I(1)(2)～Ⅵ(1)(2)	各1	1～4	海外留学・海外業務を想定した大学中・上級レベルのコミュニケーション技術を修得する。	なし
英語コミュニケーション I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～2	speaking と writing を中心に基礎的英語力を充実させる。	なし
上級英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	3～4	reading, writing を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	英語8単位以上を*のついた基本科目または所属学科指定の振替科目で修得していること。
上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	各1	3～4	listening, speaking を中心として、高度な英語力を充実させる。授業は原則として英語で行われる。	
ビジネス英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2～4	ビジネスに用いられる英語力を養成する。	英語4単位以上を*のついた基本科目で修得していること。
時事英語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2～4	時事英語の知識に基づいた英語力を養成する。	

- 注) ① *および** 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。
- ② *および**のついていない科目の単位は、特別措置等による認定がない限り、必修単位に充てることができません。
- ③ 英語8単位を超えて英語をコア外国語の必修として履修する場合、*のついている科目に加えて**のついている科目の中から修得することとします。
- ④ コア外国語の必修単位に充てることができない科目の単位は、学部・学科により、コア科目の必修科目または自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。
- ⑤ 対象学年は、必修単位を満たす外国語として英語を履修する場合の指定です。ただし、英語を必修外国語としない場合でも、履修条件を満たすように履修してください。
- ⑥ 「4 履修に関する特別措置」【P.35参照】に該当し、上位学年の科目の履修を希望する学生は、上の表のすべての科目について、その「履修条件」が適用されません。履修科目の選択に当たっては、英文研究室(文教育学部1号館419室)に相談してください。

2 クラス編成

科目	対象学年	編成のされ方	備考
基礎英語 I (1)(2)・II(1)(2)	1	習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
中級英語 I (1)(2)・II(1)(2)	2	習熟度別クラス編成を行い、指定されたクラスで履修する。	
英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	3～4	クラスごとに各学部の優先枠を設ける。	卒業年度学生に優先権がある。
英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)	3～4	クラスごとに各学部の優先枠を設ける。	卒業年度学生に優先権がある。
英語プレゼンテーション I (1)(2)・II(1)(2)	3～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	
グローバル・イングリッシュ I (1)(2)・II(1)(2)	3～4	特に条件は設けない	クラス定員は特に設けない
Advanced Communication Training I (1)(2)～Ⅵ(1)(2)	1～4	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	
英語コミュニケーション I (1)(2)・II(1)(2)	1～2	初回の授業の際に、履修希望者がクラス定員の上限を超えた場合は、抽選とする。	
上級英語 I (1)(2)・II(1)(2)	3～4	同上	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)	3～4	同上	特別措置により必修単位を満たす科目として履修する学生に優先権がある。
ビジネス英語 I (1)(2)・II(1)(2)	2～4	同上	
時事英語 I (1)(2)・II(1)(2)	2～4	同上	

注) ① クラス定員は、原則として30名です。

② 再履修の必要がある学生は、再履修に関する措置【P.35参照】に従って履修してください。

③ 英語を必修外国語としない場合で2年次以降に「基礎英語 I (1)(2)・II(1)(2)」の履修を希望する場合は、再履修の場合(前項②)と同様の手続きで履修してください。

④ 言語文化学科英語圏言語文化コースの学生が「上級英語 I (1)(2)・II(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」の履修を希望する場合、各クラスの定員に余裕がある場合のみ受講が可能となります。

⑤ 聴講については、クラス定員に余裕がある場合にのみ許可します。

3 Advanced Communication Training (ACT) プログラム

学問やビジネスの急速なグローバル化にともない、卒業後大学院に進学するにせよ、一般企業に就職するにせよ、みなさんには英語の運用能力、特に話したり書いたりすることで自分の考えを発信する能力が強く求められています。特に、在学中に留学を目指しているみなさんは、早期からこのような実践的英語運用力を高めておく必要があります。ACTプログラムは、「Advanced Communication Training I (1)(2)～Ⅵ(1)(2)」を核とし、さまざまなレベルの実践的な英語科目をプログラムとして提供することで、このようなグローバル化の必要性に応えるものです。

・「Advanced Communication Training I (1)(2)」、「同II(1)(2)」は、特に留学を目指しているみなさんを対象に開講される科目で、留学における研究計画や研究報告をネイティブ・スピーカーの教員の指導の下に英語でまとめ、英語で発表します。

・「Advanced Communication Training Ⅲ(1)(2)」、「同Ⅳ(1)(2)」、「同Ⅴ(1)(2)」、「同Ⅵ(1)(2)」は、主に大学院への進学を目指しているみなさん、また国際機関や外資系企業への就職を目指しているみなさんを対象に開講される科目で、ネイティブ・スピーカーの教員と相談のうえ特定の研究テーマを決め、それについて英語で学び、研究成果を英語で発表します。

ACTプログラムは、これらを含む下記の表の中の授業科目から合計12単位を修得することにより、プログラムの修了証

を取得できるとともに、成績証明書に Advanced Communication Training Program の修了を明記できる制度です。

各授業科目は標準的な履修年次と履修条件を定めていますが、授業についていく英語力さえあれば1年次から履修できる科目もありますので、ぜひ積極的にこのプログラムに参加し、4年間を通じて実践的な英語力を高めてください。

ACTプログラムへの参加希望者は、履修登録期間中にACTプログラム科目の履修登録を行ってください。プログラム修了証の発行および成績証明証への記載を希望する学生は、卒業予定年度の所定の期間に学務課でプログラム修了証明証発行申請を行ってください。

Advanced Communication Training Program

	単位	授業科目	標準履修年次	履修条件
CB	2 (選択必修)	Advanced Communication Training I(1)(2)(ESA)	1~4	授業初回到履修希望者が30名を越えた場合、抽選を行う。ただし学部ごとに開講されるクラスについては、当該学部の学生に優先権がある。
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training II(1)(2)(ESA)		
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training III(1)(2)		
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training IV(1)(2)		
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training V(1)(2)		
	2 (選択必修)	Advanced Communication Training VI(1)(2)		
	2 (選択)	Summer Program in English I		なし (定員 20 名)
	2 (選択)	Summer Program in English II		
	2 (選択)	Summer Program in English III		
	2 (選択)	Summer Program in English IV		
	2 (選択)	Summer Program in English V		
2 (選択)	Summer Program in English VI			
	1 (選択)	イングリッシュ・キャンプ	1~4	なし (定員 30 名)
SB	各1 (選択)	上級英語 I (R/W) (1)(2)	3・4	コア英語8単位以上を修得していること (コア外国語 (英語) の「履修条件」を参照)
	各1 (選択)	上級英語 II (R/W) (1)(2)		
	各1 (選択)	上級英語 III (L/S) (1)(2)		
	各1 (選択)	上級英語 IV (L/S) (1)(2)		
PT	2 (選択)	Academic Writing A (文系) /B (理系)	3・4	「上級英語」に準ずる
	2 (選択)	Academic Presentation A (文系) /B (理系)	1~4	授業初回到履修希望者が30名を越えた場合、抽選を行う。
	2 (選択)	TOEFL 対策ゼミ R/L *		
	2 (選択)	TOEFL 対策ゼミ S/W *		
	2 (選択)	IELTS 対策ゼミ R/L *		
	2 (選択)	IELTS 対策ゼミ S/W *		
	各1 (選択)	時事英語 I (1)(2)	2~4	コア英語4単位以上を修得していること (コア外国語 (英語) の「履修条件」を参照)
	各1 (選択)	時事英語 II (1)(2)		
	各1 (選択)	ビジネス英語 I (1)(2)		
	各1 (選択)	ビジネス英語 II (1)(2)		
	各1 (選択)	英語プレゼンテーション I (1)(2)		
各1 (選択)	英語プレゼンテーション II (1)(2)			

I~VIから4単位を必ず修得すること

以上から12単位修得で修了証発行

ESA = English for Study Abroad, CB = Content-Based, SB = Skill-Based, PT = Practical Training

*卒業単位に含めることができない

4 履修に関する特別措置

1) 入学以前に『実用英語技能検定』（文部科学省認定・財団法人日本英語検定協会主催）1級又は準1級、TOEIC（財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会主催）680点以上のスコアもしくはTOEFL（Educational Testing Service（ETS）主催）において530（PBT）／200（CBT）／72（iBT）点以上、もしくはIELTSにおいて6以上、もしくはGTEC for Studentsにおいて760点以上のスコアを持っている学生に関する措置

（「II-4 単位制」(2)【P.53～55参照】）

a 入学以前に実用英語技能検定準1級、TOEIC680点以上815点未満のスコアもしくはTOEFL530（PBT）／200（CBT）／72（iBT）点以上580（PBT）／237（CBT）／92（iBT）点未満、もしくはIELTSで6以上7未満、もしくはGTEC for Studentsで760点以上のスコアを持っている学生

「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する4単位を認定します。残りの必修単位は「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)」、「英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「Advanced Communication TrainingⅠ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)」等で充足させることができます。

b 入学以前に実用英語技能検定1級、TOEIC815点以上のスコア、TOEFL580（PBT）／237（CBT）／92（iBT）点以上もしくはIELTSで7以上のスコアを持っている学生

「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」、「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」に相当する12単位を認定します。

※上記の条件を充たし、単位認定を希望する者は、所定の期間に学務課で単位認定の申請をすること。

2) 上記1)の実用英語技能検定、TOEIC、TOEFL、IELTSもしくはGTEC for Studentsによる単位認定資格を持たないが、入学時の成績が基準に達した学生に関する措置（特別措置の基準は所属学部当該学年全受験者のスコアとの相対評価で定める）

1年次から2年次履修対象科目を履修し、「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」の代わりに「中級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」を1年次対象の必修単位として履修することを認めます。また残りの英語の必修単位を「英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)」、「英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」、「Advanced Communication TrainingⅠ(1)(2)～Ⅵ(1)(2)」等で充足させることを認めます。

3) 1年次終了まで（「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」の単位を修得するまで）に実用英語技能検定1級、TOEFL580（PBT）／237（CBT）／92（iBT）点以上、TOEIC815点以上もしくはIELTSで7以上のスコアを得た学生もしくは1年次の成績が基準に達した学生に関する措置（特別措置の基準は所属学部当該学年全受験者のスコアとの相対評価で定める）

次年度の履修手続きの際、「英語コミュニケーションⅢ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」「英語コミュニケーションⅤ(1)(2)・Ⅵ(1)(2)」「英語プレゼンテーションⅠ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「上級英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」及び「上級英語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」の履修を認めます。

5 再履修に関する措置

再履修が必要となった場合は、学務課より掲示される方法に従い、再履修の手続きをしてください。自分が所属する学部の指定クラスで履修してください。この場合、英語を必修外国語としている学生の履修が優先されます。

●II ドイツ語・フランス語・中国語

[ドイツ語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎ドイツ語 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	各2	1	1年間をかけてドイツ語の文法を詳しく学ぶ。ドイツ語の文法体系はかなりしっかりしているため、1年間の学習を通じて高度なドイツ語の文章の読解が可能になる。	同年度でⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを連続して履修すること。
* 基礎ドイツ語（応用） Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1	読み・書き・話し・聞くという総合的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 発展ドイツ語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展ドイツ語 III(1)(2)・IV(1)(2)	各1	2	さまざまなジャンルの中級程度のドイツ語と取り組みながら、ドイツ語の力を伸ばす。	「基礎ドイツ語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎ドイツ語会話 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	外国人講師による簡単な日常会話の演習。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***ドイツ語初歩 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	ドイツ語文法の概略をつかみ、簡単な文章が読めるようにする。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

注) ① * 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。ドイツ語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎ドイツ語I・II・III・IV」を履修すること。

*** 第二外国語あるいは第三外国語としてドイツ語を8単位未満履修する場合にのみコア科目(外国語)の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてドイツ語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科(仏語圏コース室ドイツ語担当)の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1 クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展ドイツ語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。

なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『ドイツ語技能検定試験』(財団法人ドイツ語学文学振興会主催)3級以上に合格している学生に関する措置(「II-4 単位制」(2)【P.53～55参照】)

a 3級合格者:「基礎ドイツ語I・II・III・IV」に相当する8単位を認定します。

b 2級以上合格者:「基礎ドイツ語I・II・III・IV」「基礎ドイツ語(応用)I(1)(2)・II(1)(2)」「発展ドイツ語I(1)(2)・II(1)(2)」「発展ドイツ語III(1)(2)・IV(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

2) 既にドイツ語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる(準)基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

[フランス語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎フランス語 I・II・III・IV	各2	1	フランス語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようになる。	同一年度でI・II・III・IVを連続して履修すること。
* 基礎フランス語(応用) I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	読み・書き・話し・聞くという様々な基本的な訓練を通じて実践的な語学力を養う。	「基礎フランス語I・II・III・IV」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 発展フランス語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	基礎を固めつつ、テキストの読解や様々な練習を通じて、フランス語学力の向上を図る。	「基礎フランス語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展フランス語 III(1)(2)・IV(1)(2)	各1	2		「基礎フランス語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎フランス語会話 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	外国人講師によるフランス語初歩の会話演習。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***フランス語初歩 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	フランス語文法の概略をつかむ。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。

注) ① * 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。フランス語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎フランス語I・II・III・IV」を履修すること。

*** 第二外国語あるいは第三外国語としてフランス語を8単位未満履修する場合にのみコア科目(外国語)の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語としてフランス語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科(仏語圏コース室)の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展フランス語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

1) 入学時に『実用フランス語技能検定試験』(財団法人フランス語教育振興協会主催)4級以上に合格している学生に関する措置(「II-4 単位制」(2)【P.53~55参照】)

a 4級合格者:「基礎フランス語I・II・III・IV」に相当する8単位を認定します。

b 3級以上合格者:「基礎フランス語I・II・III・IV」「基礎フランス語(応用)I(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語I(1)(2)・II(1)(2)」「発展フランス語III(1)(2)・IV(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。

2) 既にフランス語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる(準)基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

[中国語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
* 基礎中国語 I・II・III・IV	各2	1	中国語の文法の基礎を修得し、簡単な会話や文章の読解ができるようにする。	同一年度でI・II・III・IVを連続して履修すること。
* 基礎中国語(応用) I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1	簡単な文章の読解を通じて、中国語の基礎を修得する。	「基礎中国語I・II・III・IV」を同時に履修するか、またはこれらを既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展中国語 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2	標準的な中国語の文章の読解を行う。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
* 発展中国語 III(1)(2)・IV(1)(2)	各1	2	基礎的学力を固めつつ、標準的文章の読解、及び聴解能力を高める。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していること。同一年度でIII・IVを連続して履修することが望ましい。
***基礎中国語会話 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	2～4	外国人講師による簡単な中国語会話演習。	「基礎中国語I・II・III・IV」を履修済みであることが望ましい。同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
***中国語初歩 I(1)(2)・II(1)(2)	各1	1～4	中国語の入門を図る。併せて発音や聞き取りの練習も行う。	同一年度でI・IIを連続して履修することが望ましい。
中国語リーディング	2	2～4	中国語の読解力を強化する。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していることが望ましい。
中国語リスニングI	2	1～2	中国語の聞き取り能力を育成する。	「基礎中国語I・III」を既に履修していることが望ましい。
中国語リスニングII	2	2～4	中国語の聞き取り能力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していることが望ましい。
中国語ライティングI	2	2～4	中国語での作文能力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」「発展中国語I・II」または「同III・IV」を既に履修していることが望ましい。
中国語ライティングII	2	2～4	中国語での作文能力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」「発展中国語I・II」または「同III・IV」を既に履修していることが望ましい。
中国語 コミュニケーションI	2	2～4	中国語による対話力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していることが望ましい。
中国語 コミュニケーションII	2	2～4	中国語による対話力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」を既に履修していることが望ましい。
中国語 プレゼンテーションI	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」「発展中国語I・II」または「同III・IV」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。
中国語 プレゼンテーションII	2	1～4	中国語による発信力を育成する。	「基礎中国語I・II・III・IV」「発展中国語I・II」または「同III・IV」を既に履修していること、または中国語学習歴が2年以上であることが望ましい。

注) ① * 全学部の学生がコア科目(外国語)の必修単位に充てることができる基本科目です。中国語を8単位以上履修する場合は、必ず「基礎中国語I・II・III・IV」を履修すること。

*** 第二外国語あるいは第三外国語として中国語を8単位未満履修する場合にのみコア科目(外国語)の必修単位に充てることができます。

② 対象学年は、必修単位を満たす外国語として中国語を履修する場合の目安です。

③ 「4 履修に関する特別措置」に該当する学生は、言語文化学科(中文コース室)の判断で指定されたクラスを履修してください。

2 クラス編成

1クラス50名以内とします。指定されたクラスで履修してください。

1クラスの履修希望者が50名を超えた時は、調整を行います。

3 より高度な授業科目

発展中国語よりも高度な内容の学習を希望する場合は、文教育学部言語文化学科の専門教育科目を履修してください。
なお、これらはコア科目の単位にはならないので注意してください。

4 履修に関する特別措置

- 1) 入学時に『中国語検定』（日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学生、『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生及び『漢語水平考試験』（中国語検定委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置（「II-4 単位制」(2)【P.53～55参照】）
 - A 入学時に『中国語検定』（日本中国語検定協会主催）4級以上に合格している学に関する措置
 - a 4級合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。
 - b 3級以上合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
 - B 入学時に『中国語コミュニケーション能力検定』（中国語コミュニケーション協会主催）において250点以上のスコアをもっている学生に関する措置

250点以上400点未満：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。

400点以上：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
 - C 入学時に『漢語水平考試験』（中国語検定委員会主催）の2級以上に合格している学生に関する措置
 - a 2級合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定します。
 - b 3級以上合格者：「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展中国語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定します。
- 2) 既に中国語を学んでおり、相当の実力があると認められる学生に関しては、必修単位を満たすことができる（準）基本科目以外の履修によって、必修科目を満たすことを認める場合があります。

●III ロシア語・朝鮮語

ロシア語と朝鮮語は、初歩クラスと会話クラスが開講されます。

[ロシア語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*ロシア語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	ロシア語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
*ロシア語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	簡単なロシア語会話の練習。	「ロシア語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

[朝鮮語]

1 授業科目

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*朝鮮語初歩 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	朝鮮語の基礎を学ぶ。	同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。
*朝鮮語会話 Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)	各1	1～4	簡単な朝鮮語会話の練習。	「朝鮮語初歩Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。同一年度でⅠ・Ⅱを連続して履修することが望ましい。

●Ⅳ スペイン語・イタリア語・アジア諸語（トルコ語・アラビア語）

それぞれ現代スペイン語・現代イタリア語・現代アジア諸語（トルコ語・アラビア語）の初級コースが開講されます。

科目	単位	対象学年	内容	履修条件
*現代スペイン語	4	1～4	スペイン語の基礎を学ぶ。	
*現代イタリア語	4	1～4	イタリア語の基礎を学ぶ。	
*現代アジア諸語Ⅰ～Ⅳ (トルコ語・アラビア語)	2	1～4	トルコ語・アラビア語の基礎を学ぶ。	各クラスの言語についてはシラバスで確認すること。

⑤ スポーツ健康

1 スポーツ健康の履修

全学部とも「スポーツ健康実習」2単位が必修です。

2 授業科目

学部	必修科目		自由選択科目					
	スポーツ健康実習		スポーツ科学概論		健康科学概論		生涯スポーツ	
	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次	単位数	履修年次
全学部	2単位	1年次	2単位	1～4年次	2単位	1～4年次	0.5～3単位	1～4年次

注) ① 「生涯スポーツ」の履修単位を「スポーツ健康実習」の単位に替えることは、原則的にはできません。

② 「スポーツ科学概論」、「健康科学概論」、「生涯スポーツ」の単位は、文教育学部の学生は自由選択科目として、理学部、生活科学部の学生はコア科目（「スポーツ健康」の選択科目）として卒業単位の中に含めることができます。

1) スポーツ健康実習

運動やスポーツを通じて健康や体力の維持増進を図り、あわせて自己の身体への理解と関心を深めることを目的とします。前学期は主に体力の維持増進を目的として「共通フィットネス」を履修します。後学期は開講される種目（テニス、バドミントン、ダンス、多種目など）の中から履修する種目を選択します。前・後学期それぞれ2回ずつの講義が含まれます。

自己の体力水準を正しく知ってもらうために、4月と12月に体力診断テストを行います。

なお、傷害あるいは慢性疾患等で運動することができない場合は、軽運動クラスを選択することができます。

2) スポーツ科学概論

人はなぜスポーツをするのか、スポーツは人にどのような影響を与えるのか、というテーマについて、人文・社会科学的視点からと生理学的視点から、それぞれ講義します。

3) 健康科学概論

青年期、成人期を女性として健康に生きるための基本的な知識、考え方を学び、同時に健康をめぐる諸問題に対する関心を深めることを目的とします。

4) 生涯スポーツ

生涯にわたって自らの生活の中に運動やスポーツを取り入れ実践していくことができる基礎的能力を高めることを目的とします。開講する種目は学生からの要望の高い種目が用意されます。各学期の第一週目にガイダンスと受講の受付をします。

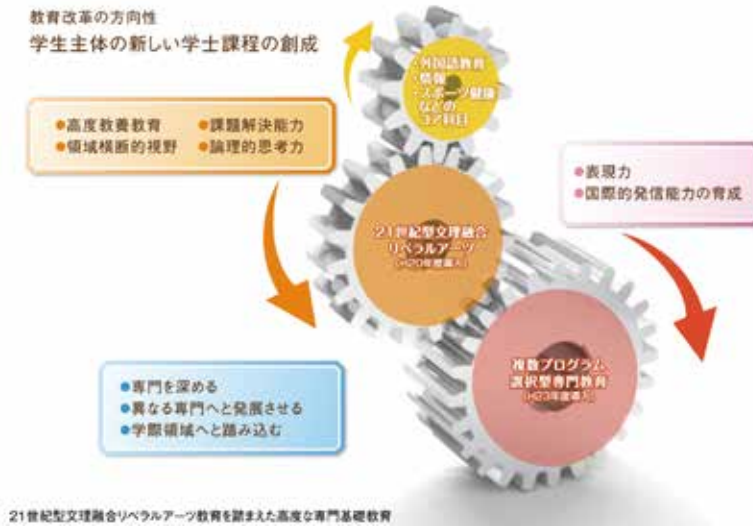
(2) 専門教育科目

① 「複数プログラム選択履修制度」(主・強化・副・学際プログラム)

複数プログラム選択履修制度とは、「主プログラム」「強化プログラム」「副プログラム」「学際プログラム」の4つから構成されており、学生が自分の目標にあわせて、これらのプログラムを選択的に組み合わせることにより、

- 深く専門的な知識を学びたい
- 将来の進路を考えて、幅広くさまざまな分野の知識や技能を身につけたい
- 分野を横断した最先端の学問領域を学びたい
- 国際理解を深めたい

など、学生一人ひとりの意欲やニーズに柔軟に対応する教育課程です。



「主プログラム」とは

自分の所属する学科から提供される知識や技能の基礎を学ぶプログラムをいいます。

「強化プログラム」とは

専攻した分野をさらに深く、または広く学ぶためのプログラムをいいます。

「副プログラム」とは

自分の専攻した分野と異なる分野を学ぶプログラムをいいます。

「学際プログラム」とは

さまざまな分野を融合する最先端の知識や技能を学ぶ学際型プログラムをいいます。



◆「複数プログラム選択履修制度」の履修方法

第1のプログラム（必修）

主プログラム		
趣旨	選択条件	
各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラム	所属学科の開設するプログラムから選択すること	
開設プログラム		
▼文教育学部 ◎人文科学科 哲学・倫理学・美術史、 比較歴史学、 地理環境学 ◎言語文化学科 日本語・日本文学、 中国語圏言語文化、 英語圏言語文化、 仏語圏言語文化	◎人間社会科学科 社会学、教育科学、 心理学、 ◎グローバル文化学環 グローバル文化学(※1)	▼理学部 ◎数学科 数学 ◎物理学科 物理学 ◎化学科 化学 ◎生物学科 生物学 ◎情報科学科 情報科学
		▼生活科学部 ◎人間・環境科学科 人間・環境科学 ◎人間生活学科 発達臨床心理学、 生活社会科学、 生活文化学

※1：グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとして、グローバル文化学主プログラムと、所属学科のいずれかのコースの副プログラムを履修します。



第2のプログラム（選択必修）

強化プログラム		
趣旨		
各専門領域のより高度な科目群からなり、 専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラム		
選択条件		
同一名の主プログラムを履修していること		
開設プログラム		
主プログラムと同じ（グローバル文化学を除く）		
副プログラム	学際プログラム	
趣旨	趣旨	
学生の多様な能力・適性及び学習意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学修機会を提供するためのプログラム	新たな領域融合型ないし学際型の専門領域に即応し、先端研究分野等で要請される新しいタイプの専門人材養成に対応するプログラム	
選択条件	選択条件	
所属学部で開設するプログラムから選択すること。 ただし、主プログラムと同じプログラムを履修することはできない	所属学部で開設するプログラムから選択すること	
開設プログラム		
▼文教育学部 哲学・倫理学・美術史、 比較歴史学、地理環境学、 日本語・日本文学、 中国語圏言語文化、 英語圏言語文化、 仏語圏言語文化、 日本語教育、社会学、 教育科学、心理学(A・B)、 舞踊教育学、音楽表現	▼理学部 数学、物理学、化学、 生物学、情報科学 ▼生活科学部 人間・環境科学、 発達臨床心理学、 公共政策論、ジェンダー論、 生活文化学	◎グローバル文化学環 グローバル文化学 ▼理学部 ◎数学科、物理学科、情報科学科 応用数理 ◎物理学科、化学科 物理・化学 ◎化学科、生物学科 ケミカルバイオロジー ◎生物学科、化学科、情報科学科 生命情報学 ▼生活科学部 ◎人間生活学科 消費者学

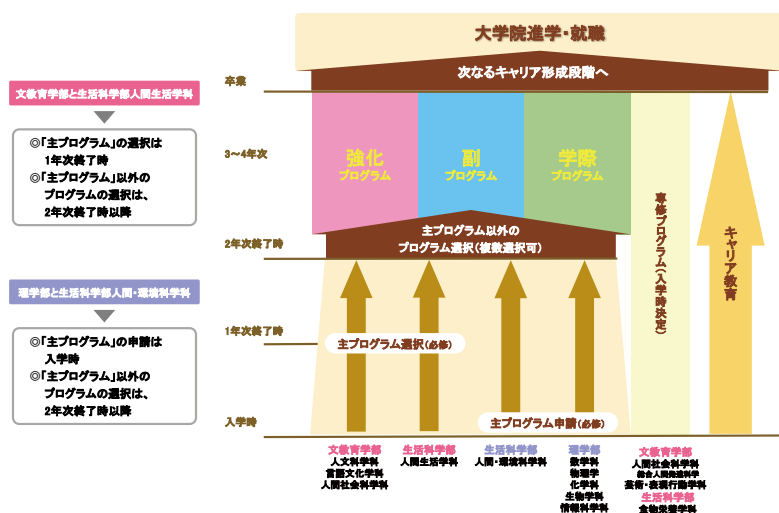


第3のプログラム（自由選択）

副プログラム	学際プログラム
選択条件	選択条件
他学部のプログラムも自由に選択できる	他学部のプログラムも自由に選択できる。ただし、理学部提供のプログラムを、文教育学部及び生活科学部人間生活学科所属の学生が履修することはできない
開設プログラム	開設プログラム
「第2のプログラム」を参照	「第2のプログラム」を参照

※3：文教育学部人間社会科学科総合人間発達科学プログラム、芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科は、4年一貫の専修プログラムに従って学修します。なお、人間社会科学科総合人間発達科学プログラム、芸術・表現行動学科および食物栄養学科で学んでも、ニーズに応じて第3のプログラムを選択することができます。

◆プログラム選択時期



【主プログラム】

理学部と生活科学部人間・環境科学科の学生は、入学時点で決定しています。文教育学部と生活科学部人間生活学科の学生は、1年次の10月頃に予備調査、1月頃に本申請をWebで行います。ただし、総合人間発達科学専修プログラムは、入学後すぐに決定します。本申請の結果、申請者数（第一希望者の数）が受け入れ上限数を上回っている場合は、当該主プログラム提供学科（コース・講座）における選考により決定します。

【第2プログラム】

2年次の10月頃に予備調査、1月頃に本申請をWebで行います。

【第3プログラム】

2年次の1月頃にWebで申請を行います。

2年終了時以降も、学務課にて随時変更・追加の受付が可能です。

◆入学から卒業まで

専門教育（専攻）科目の履修方法については次の規則や冊子を参照してください。

- 文教育学部 文教育学部履修規程（P.226）及び「文教育学部授業科目履修案内」
- 理学部 理学部履修規程（P.248）及び「理学部授業科目履修案内」
- 生活科学部 生活科学部履修規程（P.259）及び「履修の手引き」

主プログラムまたは専修プログラムを選択した学生が所属し、専門教育を学んでいく足場となる教育組織が学科（またはコース・講座）です。

プログラム選択履修制度全般について不明な点や時間割についての相談は、教学IR・教育開発・学修支援センター（学生

センター棟1階)に問い合わせてください。

総合学修支援センター：http://www.ocha.ac.jp/nsep/popp/supports/

② 専修プログラム

文教育学部 人間社会科学科総合人間発達科学プログラム、芸術・表現行動学科と生活科学部食物栄養学科は、4年一貫の専修プログラムに従って学習します。このため、第2のプログラムは履修しませんが、第3のプログラムとして副プログラム又は学際プログラムを選択することができます。

(3) 自由に選択して履修する科目・単位

自由に選択して履修する科目は、個々の学生が多様な関心や目的を達成するために、学生が自ら計画し、本学全体のカリキュラムの中から自由に選択履修をする科目です。

具体的には、専門教育科目(必修プログラム)は、プログラムとしてではなく、科目単位でも履修することができ、自由に選択して履修する科目の単位に充てることができます。第3のプログラムとして履修した科目の単位はここに含まれます。また、各プログラム修了の必要単位数を超える分は「自由に選択して履修する科目・単位」として、卒業に必要な履修単位数に組み入れられます。

(4) 外国人留学生特別科目

●外国人留学生特別科目「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の単位の取扱い

日本語、日本事情の授業科目については、次の基準によりコア科目の単位として取扱います。

科目区分	学部	コア科目として取扱う単位数の上限		
		【文教育学部】 合計 20 単位	【理学部】 合計 16 単位	【生活科学部】 合計 18 単位
コア科目 基礎講義(実験を除く)		(6 単位)	(10 単位)	
外国語		(16 単位)	(8 単位)	

開設する「日本語演習」、「日本事情演習」、「総合日本語サマープログラム」の授業科目は、次のとおりです。

科目名	単位数	毎週の授業時数	科目名	単位数	毎週の授業時数
日本語演習 I A	2	半期 2	日本事情演習 I A	2	半期 2
I B	2	〃	I B	2	〃
II A	2	〃	II A	2	〃
II B	2	〃	II B	2	〃
III A	2	〃	III A	2	〃
III B	2	〃	III B	2	〃
IV A	2	〃	IV A	2	〃
IV B	2	〃	IV B	2	〃
V A	2	〃	V A	2	〃
V B	2	〃	V B	2	〃
			総合日本語サマープログラム I	2	前期集中
			総合日本語サマープログラム II	2	前期集中

(5) カラーコードナンバリング【CCNum】

本学では、すべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや到達目標に照らした水準のちがいを数値コードとともに色別に明示しています。

数値コード(ナンバリング)は5桁から成ります。1桁目が科目の位置づけや内容水準の違いをあらわし、異なる色分類と数値が図のように対応しています。2、3桁目はその科目を開講している学部や学科等をあらわしています。4桁目は現在未使用です。5桁目は16進数表記によるその科目の単位数を表しています(ただし、0.5単位の科目はH、海外交換留学等の認定科目はXと表記しています)。

このナンバリングを目安にして、たとえば、科目の開講部局を確認したり、1年次いきなりカラーコード・カーマインの科目を履修することは難しいと判断するなど、履修計画を立てる際の指針にしてください。

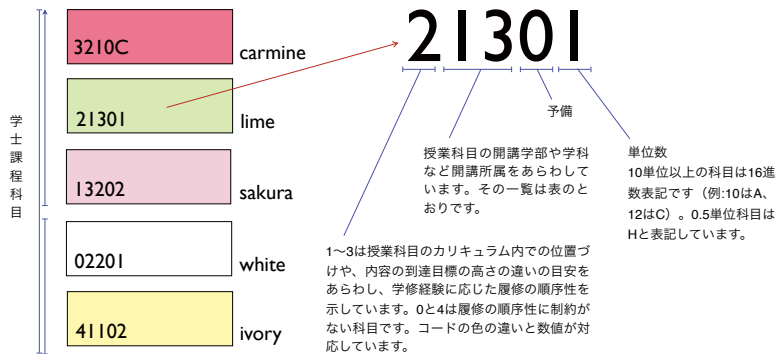
●カラーコードの分類方法

授業科目の水準とは主としてカリキュラム体系における一般的な学修の順序に対応し、概ね授業内容の難易水準に沿っています。また、それはほぼ到達すべき学修成果の目標の程度にも比例しています。こうした構造は外国語科目や情報関連科目、専門科目にあり、3つのカラーコード（サクラ・ライム・カーマイン）で階層的に表現しています。

これらとは別にカラーコード・ホワイトは他の科目との関連で学修の順序性がなく、基本的には学士課程のどの学年次にも履修できるコア科目、他大学からの編入学などで得た既修得の単位認定科目、あるいは単位互換などによって得た単位認定科目をあらわしています。カラーコード・アイボリーによって教職科目等の資格関連科目をあらわしています。

CCN

Color Code Numbering



表

ナンバリング2, 3桁	学士課程 開講学部・学科等
11	文教育学部・人文科学科
12	文教育学部・言語文化学科
13	文教育学部・人間社会科学科
14	文教育学部・芸術・表現行動学科
15	文教育学部・グローバル文化学環
21	理学部・数学科
22	理学部・物理学科
23	理学部・化学科
24	理学部・生物学科
25	理学部・情報科学科
31	生活科学部・食物栄養学科
32	生活科学部・人間・環境科学科
33	生活科学部・人間生活学科
40	その他

- 0 ホワイト 学修順序性がとくにないコア科目、既修得単位や単位互換などによる認定科目。
- 1 サクラ カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてはじめに履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易や到達すべき学修成果の目標の程度が比較的控えめに設定されている科目。
- 2 ライム カリキュラム体系上、一般的な学修の順序からみてカラーコード・サクラの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。あるいは他の開講科目との関連で学修順序性はないが、授業内容の難易や到達すべき学修成果の目標の程度がやや高く設定されている科目。
- 3 カーマイン 一般的な学修の順序からみてカラーコード・ライムの科目を履修した後に履修することが望ましいと考えられる科目。または、サクラやライムの特定の科目との学修順序が明確になってそれらの単位を取得するか、その成績について一定のグレードポイントを越えた場合に履修が認められる科目。また、他の開講科目との関連で学修順序性は特にないが、授業内容の難易度や到達すべき学修成果の目標の程度が高く設定されている科目。
- 4 アイボリー 教職等の資格関連科目。

2 履修登録

(1) 授業科目の履修

① 履修科目の決定

授業時間割を基礎にして、各自の履修する科目を決めます。ほかに学年担当の教員の指導、この冊子の「学部履修規程」「授業科目一覧」「諸資格の取得」、各学部の履修案内、本学Webページ (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus>) 内のシラバスを参考にしてください。

② 履修の手続きについて

履修登録は、学内に設置してあるパソコンから、Web上で行います。この手続きをしないと単位を修得することができませんので注意してください。おおまかな日程等は、下記のとおりです。詳細は学生ポータルサイト (<http://tw.ao.ocha.ac.jp>) 又は学生センター教務用掲示板に掲示するので、各自で確認してください。なお、科目によって抽選で履修者を決定することがあり、希望した科目の履修ができない場合もあります。

- ◇第1学期・第2学期・前学期・通年科目 (履修登録) 4月中旬
- ◇第1学期・第2学期・前学期・通年科目 (履修取消し) 前学期中2回
- ◇第3学期・第4学期・後学期科目 (履修登録) 10月上旬
- ◇第3学期・第4学期・後学期・通年科目 (履修取消し) 後学期中2回

履修登録上の注意点

- ・所定の期日以外、履修登録することはできません。
- ・履修未登録者の場合その科目の試験を受けることはできません。
- ・授業に出ていても単位修得を希望しない場合は聴講といたします。履修申請の際に聴講欄にチェックをしてください。

(2) Web履修登録マニュアル

① ログイン画面にアクセス

学内にある共用パソコンで「ID」「パスワード」を入力しログインしてください。次にInternet Explorer又はFirefoxで「IT Center ポータル」を開き、「Web履修システム」へと進みます。
(共用のPCはラーニング・コモンズやITルーム等にあります。)

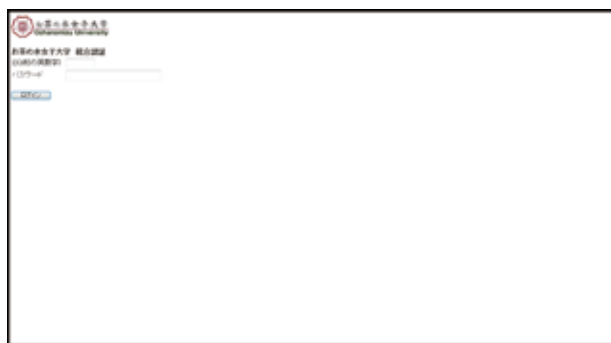
アクセスは、共用パソコン以外の学内パソコンからでもできます。この場合、以下のURLを入力してください。「Web履修システム」にアクセスされます。

URL <https://sw.ao.ocha.ac.jp> (学内からのみアクセス可能)

② ログイン

- ・認証画面でお茶大アカウントのID (ユーザー名) とパスワードを入力し、【ログイン】 ボタンをクリックします。
(お茶大アカウントは、学生用 WebMail (Office 365) で使用しているものです。)
- ・ID、パスワードが間違っている場合は、ログイン画面が再表示されます。

■ログイン画面



③ メインメニュー

- ・ログインした学生個人の情報が表示されています。
- ・各メニューの【Go!】ボタンをクリックすると次画面へ進みます。
- ・お知らせ欄は毎回必ず確認してください。

■メインメニュー画面



④ 履修申請

- ・履修関連－履修申請をクリックします。

具体的な操作については、シラバス (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/>) に掲載してある履修登録マニュアルを参照してください。

■履修申請画面



⑤ その他

Web履修登録についてのご相談は、教学IR・教育開発・学修支援センターにお問い合わせください。

(3) 履修の取消し

実際に授業を受けた結果、履修登録時に思い描いていた授業内容と異なったことなどを理由に履修を取消したくなった場合に、履修取消しがおこなえる「履修取消し手続き」制度があります。この手続きは所定の手続き期間内に学生自身が学内オンラインを使いWebでの申請を介して行います。

なお、この期間に「履修取消し」した科目に替わる科目の追加登録をしたり、新たな科目を履修登録したりすることはできません。また、この期間外に履修取消しを行うことはできません。ただし、通年科目を前学期中に取り消した場合、その科目と同曜日同時間に開講される後学期の授業科目を登録することはできます。

(4) 聴講

単位修得を前提とせず、知識の修得を目的として受講を希望する場合は、聴講希望科目の担当教員に伝え、聴講許可を得た上で、聴講登録（Web履修登録）をしてください。この場合、授業には出席できますが、単位認定はされません。

(1) 四学期制

お茶の水女子大学は、本学における教育の質をさらに高め、グローバルに活躍できる人材を育成するため、平成26年度から四学期制を導入しました。

① コンセプト

◇学修の質のさらなる向上・学修量の確保

四学期制による約2ヶ月の期間に集中して行う授業は、その記憶が鮮明な状態で次の授業を受講することができ、学修効果が高まります。また同時に履修する授業科目数が減るため、1科目にかかる授業時間外学修を含めた学習時間が必然的に増え、個々の科目の学修の質向上につながります。

◇学生の主体的な学修活動の促進・本学学生の留学促進

四学期制により5月に第1学期を終えることで、海外の大学のアカデミック・カレンダーとの互換性が高まり、第2学期を使って海外のサマープログラムなどへ参加できます。これによりグローバルな学修機会を得ることができます。また学期単位を短くすることで、1学期まるごとあるいは夏期休業とその前後の学期を組み合わせた期間に、国内外問わず長期インターンシップやボランティア活動などへ参加することも可能になります。

◇国際的交流の促進

海外の大学が夏休みの期間に、海外の大学教員を招聘して多様で刺激に富む授業の開講や、短期外国人留学生を受け入れる可能性も広がるため、国際的な交流の機会が増えます。

② 二学期制と四学期制

二学期制は、1年を前学期と後学期の2学期に分け、それぞれ約4ヶ月を単位として授業が設置されます。四学期制は、これらの学期をさらに2つに分けて、約2ヶ月を単位とした授業が設置されます。

この二学期制と並行して、四学期制が実施されます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
二学期制	前学期				夏期休業	後学期				冬期休業	春期休業	
四学期制	第1学期		第2学期			第3学期		第4学期	第4学期			

③ 授業科目と時間割

二学期制と四学期制の授業科目を組み合わせ履修し、卒業までの単位を取得します。

二学期制の主な授業科目は、前学期・後学期にそれぞれ週1回開講される「半期科目」と、前学期・後学期を通して開講される「通年科目」です。

四学期制の主な授業科目は、「2倍型科目」と「分割科目」です。

2倍型科目は、週2回開講し半期科目の半分の期間で2単位を取得します。同じ日に連続して週2回開講される2倍型科目もあります。

分割科目は、連続した第1学期・第2学期又は、第3学期・第4学期に、週1回開講され、基本的に1単位を取得できます。

(1)、(2)など科目名にカッコ付きで表示されているものがこれにあたります。

例) 基礎英語 I (1)

基礎英語 I (2)

1年を通して(1)、(2)、(3)、(4)まである分割科目もあります。

この分割科目は、1単位ごとに独立して履修できる科目と、(1)、(2)の両方を履修しなければ各1単位を取得できない連続性の強い科目があります。

どちらのタイプの科目なのかは、各科目のシラバスで確認できます。

＜基本となる科目の種類＞

- 二学期制 [A] 半期科目—— 前学期、後学期にそれぞれ週1回開講。
 - [B] 通年科目—— 前学期、後学期を通して週1回開講。
 - 四学期制 [C] 2倍型科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期ごとに週2回開講。
 - [D] 分割科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期に週1回開講。
- ① (1)又は(2)を独立して履修・単位取得できる科目。
 ② (1)及び(2)を連続して履修しないと単位を取得できない科目。

四学期制時間割のパターン

四学期制の科目…… C 2倍型科目
 D 分割科目

第1学期							第2学期							第3学期							第4学期						
	月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土
1. 2限				D(1)			1. 2限				D(2)			1. 2限							1. 2限						
3. 4限	C			C			3. 4限							3. 4限							3. 4限						
5. 6限							5. 6限							5. 6限							5. 6限						
7. 8限					Ca		7. 8限							7. 8限							7. 8限						
9. 10限		Da(1)			Ca		9. 10限		Da(2)					9. 10限		Da(3)					9. 10限		Da(4)				
11. 12限							11. 12限							11. 12限							11. 12限						

④ 第2学期を利用した海外留学

第2学期を利用して海外のサマープログラムに参加したい場合、連続性の強い分割科目 [上図D(1)] を第1学期に履修し、第2学期に [D(2)] が未修得であっても、翌年次の第2学期に [D(2)] を履修することにより分割科目 [D(1)、D(2)] の各1単位を修得することができます。科目によっては留学先で取得した単位を、第2学期に未履修だった科目として認定可能な場合もあります。

本学は、在学中に交換留学をはじめとした海外留学を積極的に推進しています。交換留学の募集は毎年、第3学期の10月に行われるため、その前の第2学期に海外語学研修や海外サマープログラムに参加し、留学生活の醍醐味を体験してみることをお勧めしています。また交換留学には一定の語学力が求められますので、交換留学に必要な語学力を身につけるためにも、第2学期を効果的に利用するとよいでしょう。

グローバル時代にはグローバルな人材が求められます。グローバルな人材となるためには、海外で学ぶことが最短かつ最善の道です。本学が第2学期を海外留学推進の学期としているのはそのためです。ぜひ、第2学期を有効に活用してください。

(2) 授業と休日

休業日は「学則 第3節 学年、学期及び休業日」の中に定められています。しかし、いろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があります(半日、全日等)、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりにいかない場合もあります。それらはすべて学務課を通して掲示又は学生ポータルサイトを使ってお知らせします。

二学期制

学期	期間
前学期	4月1日から9月30日まで
後学期	10月1日から翌年3月31日まで

四学期制

学期	期間
第1学期	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
第2学期	
第3学期	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
第4学期	

授業時間（月曜日～金曜日）

1・2限	9:00 ~ 10:30
3・4限	10:40 ~ 12:10
5・6限	13:20 ~ 14:50
7・8限	15:00 ~ 16:30
9・10限	16:40 ~ 18:10

(3) 休講

授業担当教員が公務、学会出席、病気等のためやむを得ず休講となる場合は、教員からの連絡により、学生ポータルサイトに掲載されます。学生ポータルサイトはパソコン及び携帯電話で確認できます。なお、学生ポータルサイトへのアクセスには「お茶大アカウント」が必要です。

パソコン用：<http://tw.ao.ocha.ac.jp>

携帯電話用：<http://tw.ao.ocha.ac.jp/k/>

(4) 補講

各学期末に補講期間を設けています。補講の有無については、当該授業で確認してください。また、交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置で休講となった授業の補講については、別途発表します。

(5) 台風等による交通機関の運休及び台風等非常時に対する授業関係措置

休講情報は学生ポータルサイトに逐次掲載します。

① 台風等による交通機関の運休に対する授業休講等の措置について

台風及びストライキ等により次のいずれかの交通機関が運休した場合、以下のとおり授業休講等の措置をします。

- ・JR山手線
- ・東京メトロ丸ノ内線及び有楽町線
- ・東武東上線

授業取扱

運休時間	授業の取扱い
当日午前6時30分までに運転開始	平常どおり
当日始発から午前6時30分まで運休	午前中休講
当日始発から引き続き午前10時まで運休	全日休講

ただし、JR山手線の部分ストライキ（拠点ストライキ）等による運休の場合は平常どおり授業を行います。

② 台風等による気象警報の発表に伴う授業休講等の措置について

台風により、気象庁から東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）が発令された場合、授業の取扱いは、次のとおりです。

東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）	授業の取扱い
午前6時30分の時点で、警報が発令中の場合	午前中授業休講
午前10時の時点で、警報が発令中の場合	5・6、7・8時限の授業を休講
午後2時の時点で、警報が発令中の場合	9・10時限以降の授業を休講

情報の確認は次頁の方法により、確認してください。

- ・気象庁のホームページ <http://www.jma.go.jp/index.html>
- ・テレビ・ラジオ等のマスメディアによる確認

③ その他、気象状況の悪化、不測の事態による休講の取扱いについては、その都度、措置します。

また、休講となった授業の補講については、別途措置します。

(6) 公欠等についての取扱い

学校保健安全法に定める感染症（※1）と診断された場合は、他の学生等に感染させてしまう恐れがあります。その場合は、治癒が確認された後に、医師の診断書を学務課に提出してください。授業担当教員に、欠席及び評価に対する配慮を依頼する文書を交付します。

また、教育実習・介護等体験・博物館実習・管理栄養士国家試験受験資格取得のための臨地実習、裁判员（※2）に選出された場合の欠席の取扱いは公欠としますので、公欠願を学務課で受け取り、授業担当教員まで提出してください。

※1 学校保健安全法の感染症

- 第一種：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、特定鳥インフルエンザ
- 第二種：インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
- 第三種：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎
その他の感染症

※2 裁判员制度による招集の場合

該当する学生は、呼出状を提示（確認後返却）の上、授業を受けられない日時を記入した公欠願の用紙を提出してください。授業担当教員には、学務課から当該学生について連絡をし、履修上の配慮を依頼します。なお、定期試験期間中の場合は、追試験の対象とします。

(7) 4年次での大学院博士前期課程授業聴講制度

平成19年度より学部4年生で、かつ大学院進学を希望している学生に対して大学院博士前期課程の授業の聴講を認める制度を発足させました。大学院における授業をいち早く体験することによって、大学院についてよりよく知っていただきたいと思います。

① 本制度の対象となる学生の要件

- a) 学部4年次
- b) この制度を実施している博士前期課程のコースを志望する学生*
- c) 聴講するにあたって、卒業研究・卒業論文の指導教員の許可を得ること。

*本制度を実施している専攻、コース及び受講可能授業科目については、別途学生センター棟掲示板等に掲載します。

② 受け入れ形態

授業担当教員は、この制度により受講する学部4年生に対して大学院生と同様に授業・試験等を行い、授業を終了したときは大学院生と同じ基準で成績評価を行います。

③ 本学大学院博士前期課程進学後の単位認定

この制度により科目の成績評価を受けた学部4年生が翌年度に本学大学院博士前期課程に入学した場合は、本人からの申請により、聴講した科目の単位認定を行います。コースごとに認定できる単位数の上限が決まっているので、予め確認してください。

④ 聴講の手続き等

- a) 申請期間内に学務課大学院カウンターに提出してください。
申請期間：前学期開講科目 4月下旬
後学期開講科目 10月上旬
- b) 聴講を許可後、許可書を発行します。
- c) 登録料：3,000円

〔外国語検定による単位の認定〕

『実用英語技能検定』1級又は準1級の合格者、『TOEIC』680点以上、『TOEFL』530(PBT)／200(CBT)／72(iBT)点以上、『IELTS』6以上、『GTEC for Students』760点以上のスコアを持つ者、『中国語検定』4級以上の合格者、『中国語コミュニケーション能力検定』250点以上のスコアを持つ者、『漢語水平考試験』2級以上の合格者、『実用フランス語技能検定試験』4級以上の合格者、『ドイツ語技能検定試験』3級以上の合格者の単位認定は、別紙様式1による「他大学等において修得した単位等に係る認定願」にそれぞれの基準を満たしていることを証明する書類を添えて、当該学部長に願い出てください。

当該学部長は、関係学科教員等と協議のうえ、当該教授会の議を経て、認定を行います。なお、単位の認定を行った場合は認定した単位に代えて、他の授業科目の履修を行うなど履修内容の有益化を図るよう、各学部からの指導を受けてください。

〔認定できる単位数〕

授業科目区分	認定できる単位数
コア科目	※60単位を限度とする。
専門教育科目	
その他の授業科目	

※本学において修得した単位以外のものについて、上記単位数を上限とします。なお、各外国語検定等による認定単位は以下の表のとおりとします。

認定科目及び単位一覧

授業科目	条件	認定科目・単位
実用英語技能検定	準1級合格者	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	1級合格者	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」、「中級英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する12単位を認定する。
TOEIC	680点以上815点未満	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	815点以上	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」、「中級英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する12単位を認定する。
TOEFL	530(PBT)／200(CBT)／72(iBT)点以上 580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点未満	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	580(PBT)／237(CBT)／92(iBT)点以上	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」、「中級英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する12単位を認定する。
IELTS	6以上7未満	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
	7以上	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」、「中級英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」及び「グローバル・イングリッシュⅠ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する12単位を認定する。
GTEC for Students	760点以上	「基礎英語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」に相当する4単位を認定する。
中国語検定	4級合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語(応用)Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展中国語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展中国語Ⅲ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
中国語コミュニケーション能力検定	250点以上400点未満	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	400点以上	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語(応用)Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展中国語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展中国語Ⅲ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
漢語水平考試験	2級合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎中国語(応用)Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展中国語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展中国語Ⅲ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」のいずれかに相当する12単位を認定する。
実用フランス語技能検定試験	4級合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	3級以上合格者	「基礎フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎フランス語(応用)Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展フランス語Ⅰ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」「発展フランス語Ⅲ(1)Ⅱ(1)Ⅱ」のいずれかに相当する12単位を認定する。

授業科目	条件	認定科目・単位
ドイツ語 技能検定試験	3級合格者	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」に相当する8単位を認定する。
	2級以上合格者	「基礎ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「基礎ドイツ語（応用）Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」「発展ドイツ語Ⅲ(1)(2)・Ⅳ(1)(2)」のいずれかに相当する12単位を認定する。

(3) 海外研修による単位認定

A. 本学が提携した海外の大学での語学研修、ならびに語学教育の内容を含む海外研修を行うことにより、4単位までコア科目（外国語）の英語の単位として認定します。

①研修の参加資格は以下のとおりです。

- 1) 「基礎英語Ⅰ(1)(2)・Ⅱ(1)(2)」をすでに修得済み、または履修中であること。*
- 2) 事前・事後教育に参加できること。

* 研修参加希望者が募集定員に満たない場合に限り、この条件を満たさない学生の参加を認めます。

②以下の条件を満たし、所定の期間に単位認定の申請を行うと、コア科目（外国語）の英語の単位が認定されます。この制度による認定単位数は4単位を上限とします。

認定可能な科目と単位数は研修ごとに異なるため、詳細は研修説明会にて発表します。

- 1) 本学で行う事前・事後教育に参加すること
- 2) 海外研修の全期間にわたって研修に参加すること
- 3) 研修を受けた大学により研修の修了が認められること
- 4) 本学で課した課題を研修後に提出すること

③研修希望の提出等に関する手続きについては、学生センターの掲示をよく見て、指定された期間内に申し込んでください。参加希望者が募集定員を上回った場合は選考を行います。

B. 前項Aで規定された「本学が提携した海外の大学での語学研修等によるコア科目外国語（英語）単位認定（4単位まで）」以外にも、次の3つのいずれかの場合に、それぞれの条件を満たすことでコア科目外国語（英語）の単位認定が行われます。

- 1) 本学が提携した海外の大学での語学研修、ならびに語学教育の内容を含む海外研修により、あらためて5単位目～8単位目の海外の大学での語学研修による単位認定を希望する場合。条件：前項Aで規定するすべての条件を満たした上で、単位認定の申請を行う日までに英検1級合格、TOEFL iBT82以上／CBT218以上／PBT555以上、TOEIC750以上、IELTS 6.5以上のいずれかを取得していること。
- 2) 本学との大学間交流協定提携校でないがSAF（The Study Abroad Foundation）に加盟する海外の大学における語学研修（英語）を修了し、入学以降海外の大学での語学研修等によって認定される初めの4単位までの認定を申請する場合。条件：単位認定の申請を行う日までに英検準1級合格、TOEFL iBT72以上／CBT200以上／PBT530以上、TOEIC 680以上、IELTS 6以上のいずれかを取得していること。また出発前に、必ず国際教育センターに相談して「単位取得予定表」を学務課に提出すること。
- 3) 本学との大学間交流協定提携校でないがSAF（The Study Abroad Foundation）に加盟する海外の大学における語学研修（英語）を修了し、あらためて5単位目～8単位目の、海外の大学での語学研修等による単位認定を申請する場合。条件：単位認定の申請を行う日までに英検1級合格、TOEFL iBT82以上／CBT218以上／PBT555以上、TOEIC750以上、IELTS6.5以上のいずれかを取得していること。また出発前に、必ず国際教育センターに相談して「単位取得予定表」を学務課に提出すること。

上記1) 2) 3) のいずれの場合も、海外研修終了後直ちに国際教育センターに報告し、同センターの指導に従って所定の期間に、当該海外語学研修等の修了証および当該試験の合格証またはスコア証明書を添えて、学務課で単位認定申請の手続きをしてください。審査の上、所属する学部の教授会の議を経て認定を行います。

(4) 学部学生交流協定に基づく単位互換制度

当該大学の授業科目の履修（特別聴講学生）を希望する学生は、申込関係の資料を学務課で受け取り、所定の期日までに手続きをしてください。

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件				履修可能学部
	対象学年	文教育学部	理学部	生活科学部	
東京工業大学	—	○	○	○	
東京芸術大学	—	○	○	○	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	言語文化学部／国際社会学部
東京海洋大学	—	×	○	×	海洋科学部
一橋大学	2年生以上	○	○	○	商学部／経済学部／法学部／社会学部
早稲田大学	4年生	×	○	×	先進理工学部

派遣学生申請書

派遣学生申請書

平成 年 月 日

文教育学部長
理学部長 殿
生活科学部長

所 属 _____ 学部 _____ 学科 _____ コース・講座 _____

氏 名 _____

学籍番号 _____

連絡先 _____

私は、平成 _____ 年度に _____ 大学 _____ 学部において下記科目を履修したいので、派遣学生として許可願います。

記

科目番号	科目名	教員名	単位数	学 期	曜 日	時 限
※選択科目として認定を希望する場合は、本学の読み替え科目名						

●読み替え科目については、学科の承認を得ること。

上記科目を履修することを承認します。

学科長

氏 名 _____ (印)

5 学修成果

(1) お茶の水女子大学アカデミック・エシックス

「学ぶ意欲のある全ての女性の真摯な夢の実現の場として存在する」

お茶の水女子大学は140年の歴史を通して、女性が高等教育を受けることのできる唯一の場として、先駆的な女性が多く学び、それぞれに社会をリードしてきました。その精神を今日も受け継ぎつつ、真摯に学ぶ女性を育成し、教育と研究の成果を社会に還元することによって、日本のみならず国際的に社会をリードし未来を創造しうる女性のためのより高度な教育研究機関となることを志向しています。

学びにおいて、自らの問題関心・研究テーマを、自らの努力によって怠りなく「磨き続ける」ことが求められます。本学では、高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視しており、学びの中で問題関心を広げ、専門を深め、固有のテーマを発見していくことが求められます。本学で学ぶ学生が、自らの関心において、また自らの責任において、学びを実現することを目標としています。

学びには、責任が伴います。著作権・プライバシーなど、研究活動によって他人の権利を侵害するようなことはあってはなりません。

上記の精神は、皆さんが日々の学修成果を表す場（試験やレポート等）においてもぜひ反映させていただくことを望みます。学問に対して真摯な態度で臨むことは、高等教育を受ける者として何よりも基本的なことです。

大学は、文化を創造し、自然の原理を探求する場です。自らの研究に責任を持ち、お茶大生として先人の業績に敬意を払い、自らの知と新しい文化を創造することを意識してください。

(2) 試験

各学期の終りに一定の期末試験が設けられています。各科目とも開講学期の終了時に試験を行うのが原則です。(1)(2)が付く科目のうち連続して履修を行う科目は、(1)終了時の試験を省く場合もあります。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験の際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

I 試験において不正行為を行った者については、理事・副学長（教育担当）は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

(1) 当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。

(2) 学内に当該措置（措置事例）について告示する。

II 前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則第66条に規定する懲戒の対象とします。

追試験

病気その他、止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認めた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は当該期末試験終了後1週間以内に学務課に「追試験願」及び「欠席理由を証明する書類」を提出しなければなりません。「追試験願」は学務課で配付します。

ただし、卒業予定者は前記に関わらず、直ちに申し出ることとします。

(3) レポート、論文提出

成績評価は筆記試験のほかに、レポートや論文提出によって行われる場合もあります。レポート・論文作成においても、以下のような不正行為を絶対に行ってはいけません。

本学では学則第59条に規定する懲戒の対象となります。

<レポート、論文における不正行為の例>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上の文章、図表、写真や絵などを、引用先を明記しないまま、自分のオリジナルであるかのように用いること。
- ・先輩や友人、知人などが作成した文章、図表、写真や絵などを、自分が作成したものとして用いること（レポートの使い回し）。

自分のレポート・論文上で他人のアイデアを盗用することは、筆記試験におけるカンニングと同様の不正行為です。評価する側から見れば、コピー&ペーストによって作成されたレポートや論文かどうかは明らかにわかります。

以下のルールを守ってレポートや論文を作成してください。

<レポート、論文作文のルール>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上から引用した場合は、引用部分を「」などで明示し、どこからどの部分を引用したのか明記すること。
- ・自分のレポートや論文で述べる見解や発想が、何らかの文献や著書、論文、資料、インターネットに負っている場合は、それがどこであるかを明らかにすること。

※詳細は各授業担当の教員に確認してください。また、図書館にレポートや論文の執筆の方法について書かれた参考書のコーナーがありますから、参考にしてください。

(4) 成績評価

① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の学修成果を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点から算出されるグレードポイント（下記）、および下記の対応関係によるレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で表現されます。成績証明書には合格科目について、学期毎の（alaginによる）成績通知では不合格科目も含めて記載します。

レターグレードと素点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- S（90点以上）： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。
- A（90点未満～80点以上）： 基本的な目標を十分に達成している。
- B（80点未満～70点以上）： 基本的な目標を達成している。
- C（70点未満～60点以上）： 基本的な目標を最低限度達成している。
- D（60点未満）： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。不合格。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15%以内（履修者数が10人未満の場合は2名以下）に留めることを目安にした評価基準をもって評定されます。履修取消し手続きをせずに履修放棄によって評定できなくなった場合はD（不合格）となります。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により素点が定まります。

S = 95、A = 85、B = 75、C = 65、D（不合格） = 55

② GPA制度

本学は国際標準に則した米国やアジア諸国で広く行われているGPA（Grade Point Average）を学修成果指標に用いています。この制度は、各学生の授業科目ごとの成績評価を一定の方法でグレードポイント（GP）に置き換え、そのGPにその科目の単位数を乗じて、それを履修数分合算し、その値を履修総単位数で割って算出した値です。

GPA制度は単位数という学修の「量」だけでなく、成績評価に基づく学修成果の「質」についても保証する評定です。ここでは、学生にとって、大切と考えるGPAの目的や効果を3つあげます。

1) 学ぶ意欲がいっそうに増す

個々の科目における学修改善努力が成績に反映しやすくなります。成績評価が5段階程度であらわされると、多少の努力のほどは成績評価値になかなか反映されません。しかし、GPAでは科目の試験やレポートの素点評価がそのまま成績に反映します。そのため、学修努力の違いが成績差異としてはっきりみえやすくなります。したがって、成績改善に向けた動機が高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

2) 不合格を避け、しっかり履修

GPAの算定ではある科目が不合格になると、そのGPは0で、しかもGPA算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとるとGPAの値に大きなダメージを負います。

履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。科目履修の際に必要な以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切です。

3) 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学科目のGPやGPA値を確認しながら、学内での自分の成績の相対的な位置づけを確認していくことができます。さらに、今後、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などにGPA値が使われるようになりますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できることになります。

③ GPAの算定方法

GPAは、授業科目ごとの成績評価(100点満点の素点評価SS)をつぎに示した1)の算定方法でGPに置き換え、つぎに2)の算定方法で、そのGPにその科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

$$1) GP = (SS - 55) / 10 \quad \text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は } GP = 0.0 \text{ とする。}$$

SSは100点満点の素点評価

$$2) GPA = (\text{履修科目の} GP \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修総単位数}$$

・履修総単位数には不合格となった科目(GP=0)の単位数も含まれる。

④ 2つのGPA指標(f-general GPAとf-strict GPA)の併用

本学ではGPAの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPAとf-general GPA(fはfunctionalの略)、2つの指標を併用します。

f-strict GPAは現在、多くの大学で採用されているGPAと実用上、十分な互換性をもっていることが検証済みです。しかし、成績のトップゾーンにかぎってはとくに米国と我が国の多くの大学においてGP(A)の最高点を4.0、合格域の最低点を1.0にしているのに対して、f-strict GP(A)では最高点が4.5、最低点が0.5になります。そこで他機関との通用性を優先して、本学では対外的に用いるGPAとしてf-strict GPが点4.0以上の値(100点満点換算で95点以上)を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general GPも用います。

一方、学内でGPAを種々の用途に使う場合には(成績の全範囲について原成績を忠実に反映する)f-strict GP(A)を用います。

<事例>

functional GPA算定の例示

○5科目17単位分の場合のGPとそのアベレージがどのように求められるか

科目名	単位数	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP×単位数	f-general GP	f-general GP×単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.00
地学演習	4	50	D	0.00	0.00	0.00	0.00
地学実験	1	66	C	1.10	1.10	1.10	1.10
卒業研究	8	70	B	1.50	12.00	1.50	12.00
計	17				27.50		26.90

5と7カラム目のGPは次式で求めます。成績評点は100点満点ですが、科目によっては小数点以下の値をもった評価もありえます。

$$GP = (\text{成績評点} - 55) / 10 \quad (\text{ただし、} GP < 0.5 \text{は} GP = 0.0 \text{とする})$$

最後に、 $GPA = \Sigma (GP \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修総単位数}$ ですので、上例では、

$$\text{f-strict GPA} = 27.50 / 17 = 1.617$$

$$\text{f-general GPA} = 26.90 / 17 = 1.582 \quad \text{となります。}$$

⑤ GPA算定の対象科目

他大学などでの履修（留学を含む）や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目あるいは、「合否・不合格」による評定で成績がでる科目を除く総ての科目が対象になります。

⑥ GPAの算定期日

GPAの算定は、GPA算定基準日までに確定した成績に基づいて行います。算定基準日は原則、前期は9月15日、後期は3月20日です。前期に算定される科目は、当該年度の前学期、第1学期、第2学期で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。後期に算定される科目は、当該年度の後学期、第3学期、第4学期、通年で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。

⑦ 成績証明書への記載

成績通知票や成績証明書にはその趣旨説明とともにf-strict GP (A)、f-general GP (A) 両指標を併記します。また、GPA算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とGPA間の整合性を明白にします。

⑧ 成績評価情報に関する利用について

試験により、取得した成績評価（GPA制度によるものを含む）は、本学成績評価情報に関する利用ガイドラインの定めに従い、個人情報保護を徹底した上で、調査・研究あるいは学生支援に利用することがあります。

6

学修状況チェックシステム

(1)学修状況チェックシステム alaginについて

alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、各自が履修している時間割や前学期までの成績、履修登録単位数、取得単位数などを学内LANを介して、いつでも確認できる学修状況チェックシステムです。

ここではalaginが提供している情報や効能を簡単に紹介します。

① alaginへのアクセス方法

本学のウェブサイトの複数の箇所（例：大学トップページの「在学生の方」のリンク先、学生ポータルサイトなど）に「alagin」へのリンクがあります。そこをクリックすれば図に示したようなalaginへの入口が表示され、「履修している時間割を見る」と「学修状況をチェックする」のボタンなどが表示されます。時間割は一般的なインターネットブラウザを用いてどこからでもアクセスできます。学修状況は扱っている情報の性質上、学内のLAN、すなわち図書館等に設置されている学内LAN端末や無線LAN、ochaを介してのみアクセスできます。

時間割、学修状況のいずれもクリックすると統合認証画面が表示されます。そこで自分の学生IDとパスワードを入力します。

画面上には個人名や学籍番号は表示されませんが、閲覧した後は必ずログアウトし開いたページを閉じてください。とくに学内の共用端末で閲覧した後など、別のウェブサイトに移動してそのまま放置すると閲覧した学修状況のデータがページに残ったままになるからです。



② 履修している時間割

自分が今学期に履修登録している時間割が、表示されます。もし、履修登録したはずの授業科目が表示されなかったり、履修申請していない科目が表示されている場合は、学務課の窓口で登録状況の確認をしてください。その他の疑問など、alaginに関する問い合わせは、crde-hd@cc.ocha.ac.jpで受けつけています。

授業時間外の学修に24時間学外からでも利用可能な授業・学習支援システムのmoodleやploneを用いている授業については、alaginの時間割にそのマークが付記され、そこから直接moodleやploneに入ることができます。



③ 学修単位数の状況

入学以降、前学期までの学期ごとの学修単位数の推移を確認できます。この単位数グラフは履修登録をした単位数、取得した単位数、GPA（Grade Point Average）に算入された単位数（例えば、編入学などにより認定された既修得単位数はGPAに算入されません）、それぞれについて表示されます。

単位数については大学設置基準（法定）で学期ないし年間に履修可能な単位数に上限を設けるなどの措置をして、卒業に必要な単位数を大幅に超えた履修をしないよう留意することが求められています。これは履修した授業科目に標準的に必要とされる学修時間（授業時間+授業外学修時間（講義・演習の場合、一般に授業時間の2倍））を確保し、学び修めることを確実にするための要求です（これを受けて他大学では、学期あたり21とか23単位といった履修制限を設定しています〔キャップ制〕）。これは単位制度の実質化と呼ばれており、現在の日本の大学制度の典型的な課題になっています。

この対応として本学では制度により履修制限をする方策をとらず、みなさんが単位制度の実質化の意図、GPAの特性（必要以上に履修をするとその分、無理な学修負荷が生じて成果を損なう危険率が増す）を理解し、このalaginを通じて単位取得状況をチェックしつつ、学生のみなさんが主体的に単位制度を実質化していく策を講じています。

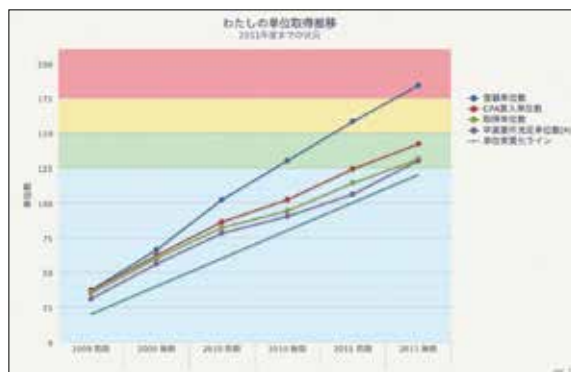
このグラフには、単位制度が妥当に機能し実質化していると判断される基準線（ドットのない青い直線）が示されています。このラインは卒業要件単位を4年間で充たしていくと想定したときに、そのおよそ3割増しで履修していくケースを示しています。したがって、このラインを目安に、これを大きく超えて履修し（青色のグラフ）単位を取得（緑色グラフ）していくような学修の仕方は「履修しすぎによって個々の授業への学修時間が確保できず全体の学修成果の実効性やクオリティが低下している」ことを示すものとなります。こうした学修の仕方は努力の成果とは認められず、反対に否定的に評価されます。要は卒業要件を充たす範囲で十分な授業時間外の学修時間を確保した状態で、質の高い学びをしてもらうことが望ましいのです。

現実的には1、2年次に、この基準線を上回る履修と単位取得がなされることでしょう。しかし、最終的にはこのラインに近づいていくよう調整的に履修計画を立ててください。

④ 成績表

前期・後期ごとに更新される入学来の成績一覧です。履修した全科目のカラーコードナンバリング、授業コード、科目名、複数プログラム名（これはすぐに反映されない場合もあります）、単位数、レターグレード、グレードポイント、その科目のグレードポイントの平均値、履修年度の各情報が記載されます（不合格になった科目も表示されます）。

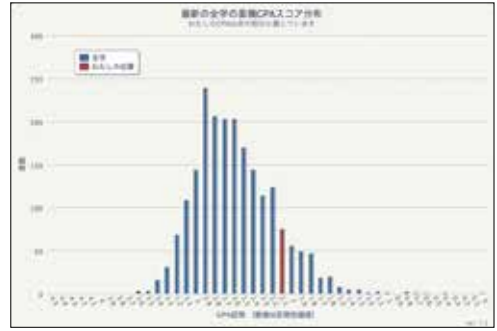
グレードポイントなどの項目名の横をクリックすると昇順、降順での並び替えができます。右上の検索により、全文にわたっての検索絞り込みができます。



⑤ GPAの学内での位置づけ

GPAを用いた学修成果状況を、以降の3観点で確認できます。用いているGPA指標はf-strict GPA（当履修ガイドのGPA制度を参照してください）です。

入学来、前学期までの自分の累積GPAの値を、学士課程全学生の累積GPAの度数分布のなかで捉えることができます。度数分布の各バーは横軸に示した数値を先頭にして次の数値に至る手前までの区間です。即ち右端の区間はGPA4.5以下～4.4を含まないそれ以上までの値の区間をあらわしています。縦軸は各区間の度数（人数）を表しています。グラフの下のボタンをクリックすることにより、同様の度数分布と自分の位置づけを所属学部、または所属学年において捉えることができます。



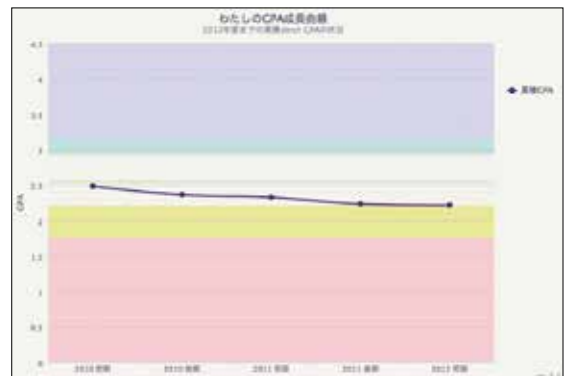
⑥ 学期ごとのGPA推移

学期ごとの自分のGPAの推移を確認できます。グラフ背景は5色のラインが引かれています。上から順にGPA3.5のライン（紫）。これを超えると、きわめて優等な学修成果を達成した学期だったといえます。次にGPA3.0のライン（青）、これを超えると、優等な学修成果を修めた学期だったと評価できます。緑のラインは全学平均GPAをあらわしています。黄色のラインはGPA2.0をあらわしています。これを下回ると学修成果が不十分な学期だったといわざるをえません。大学によっては、これ以上のGPAを獲得することを卒業要件にしています。赤色のラインはGPA1.5を表し、これを下回った場合は、学修成果にあきらかな問題があったといえます。学修について担当教員や学修支援センター、学務課、あるいは学生相談室などに相談し対策を図ることをお勧めします。



⑦ 学修成長曲線

これは各学期ごとにf-strict GPAを入学以来の累積で示し、その推移を曲線で表現したグラフです。学期ごとのGPAに比較すると入学来の加算で示されるため変動が緩やかになります。その分、学期間のパフォーマンスのばらつきが相殺されて修学期間を通じた学修プロセスの成果状況を反映したグラフになります。そのため点間をあえて曲線で補完して表現しています。この曲線では変化の量（大きさ）よりも全体の形状に注視する必要があります。右図のように全体にマイナス成長やマイナス気味になっている場合は努力要請を表しており、学修計画に何らかの対策を施す必要があるでしょう。



グラフ背景の色分けの意味についてはalaginのウェブサイトにある説明をご覧ください。

なお、alaginは現在も開発を進めており、皆さんの修学期間中に、さらに新たな情報の表示や機能の拡張、が施されていく予定です。それに伴ってここに記した操作方法や内容が変更される場合もあります。常にalaginに接していれば、それらの変化には十分に対応できることでしょう。

※ alaginに関する問い合わせは、crde-hd@cc.ocha.ac.jpで受け付けています。

学籍とは、本学の学生としての身分を有していることをいいます。学籍は入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって失われます。在学とは、学生が本学の学籍を有し、現に学修している状態をいいます。在学期間とは、その学修している期間をいいます。修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な最小の在学期間をいい、在学年限とは、本学に在学できる最長の在学期間をいいます。なお、休学期間は在学期間には含めません。

(1) 修業年限

修業年限は4年です。修業年限の2倍を超えて在学することはできません。ただし、編入学、転学部・転学科等による学生は、修業すべき年数の2倍を超えて在学することはできません。また、入学前に、本学の科目等履修生として一定の単位を修得した者が入学する場合、規定により認められた単位の全部、又は一部が教育課程の一部を履修したと認められるときは、当該学部教授会の議を経て、規定する修業年限について当該単位数、その修得に要した期間その他を考慮して、2分の1を超えない範囲でその修業年限に通算することができます。

(2) 休学

病気その他の事由により引き続き2か月以上修学することができないときは、事由を添えて学長に願い出てその許可を得る必要があります。なお、休学の期間はその学年末までとし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができます。

■留意事項

- ・休学期間は、通算して定められた修業年限の年数を超えることができません。
- ・休学期間は、在学期間には算入しません。
- ・休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。
- ・休学期間中は、授業料は発生しません。
- ・休学期間満了後、「復学」「退学」「休学の延長」等の申し出がない場合は授業料の納入が必要となります。

(3) 復学

休学の理由が解消して復学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(5) 除籍

次の各号のいずれかに該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が除籍します。

- ・授業料を2期連続して滞納し、督促してもなお当該2期分を納付しない者【P.284参照】
- ・本学則に定める第8条第2項に定める在学年限を超えた者
- ・本学則に定める第33条第3項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- ・長期間にわたり行方不明の者
- ・入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学料の全額又は半額を所定の期日までに納付しない者

(6) 転学

本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければなりません。

(7) 留学

本学には大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」があります。交換留学生として派遣されるためには、学内

の選考を経て協定校の承諾を得る必要があります。留学期間は修業年限に含まれ、修得した単位は一定の条件により認定を受けることができます。

大学間交流協定校一覧（学生派遣可能な協定校のみ）

（2016年12月現在）

協定校	国名	締結年月日
アジア（26校）		
インドネシア芸術大学デンパサール校	インドネシア	2014.01.10
韓国芸術総合学校舞踊院	韓国	2011.01.17
慶北大学校	韓国	2011.06.22
啓明大学校	韓国	2013.07.09
建国大学校	韓国	2014.03.21
高麗大学校	韓国	2015.02.24
淑明女子大学校	韓国	2000.02.14
同徳女子大学校	韓国	2005.03.30
釜山大学校	韓国	2012.03.21
釜山外国語大学校	韓国	2016.07.12
梨花女子大学校	韓国	2000.02.28
アジア工科大学院大学	タイ	2004.12.29
タマサート大学	タイ	2007.06.13
チェンマイ大学	タイ	2010.05.27
プリンス・オブ・ソンクラーク大学	タイ	2009.08.14
開南大学	台湾	2012.05.25
国立政治大学	台湾	2001.07.25
国立台北芸術大学	台湾	2002.01.29
国立台湾大学	台湾	1999.12.17
大連外国語大学	中国	2006.10.02
北京外国語大学	中国	2005.10.17
北京大学歴史学系	中国	2002.01.26
復旦大学歴史学系	中国	2010.10.12
国立ハノイ教育大学	ベトナム	2008.03.03
ハノイ大学	ベトナム	2013.02.18
ベトナム科学技術アカデミー・ゲノム機関	ベトナム	2013.10.15
中東（1校）		
アンカラ大学	トルコ	2007.08.08
アフリカ（2校）		
カイロ大学	エジプト	2007.03.15
マンソウラ大学	エジプト	2003.03.30
北米（10校）		
ヴァッサー大学	アメリカ	2006.06.01
オルブライト大学	アメリカ	2015.04.27
カリフォルニア州立大学フラトン校	アメリカ	2015.12.22
カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ	2014.01.02
カリフォルニア大学デービス校	アメリカ	2010.09.30
カリフォルニア大学リバーサイド校	アメリカ	2014.04.14
チャタム大学	アメリカ	2016.02.16

協定校	国名	締結年月日
パーデュー大学	アメリカ	2004.01.26
南オレゴン大学	アメリカ	2012.10.22
マギル大学	カナダ	2015.04.29
南米（1校）		
サンパウロ大学	ブラジル	2016.08.23
オセアニア（3校）		
ニューサウスウェルズ大学	オーストラリア	2011.09.30
モナシュ大学	オーストラリア	1994.12.14
オタゴ大学	ニュージーランド	2003.12.19
ヨーロッパ（28校）		
オックスフォード大学クイーンズコレッジ	イギリス	1994.01.18
マンチェスター大学	イギリス	2009.09.15
ハル大学	イギリス	2013.10.02
ロンドン大学キングスカレッジ	イギリス	2013.12.02
ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院	イギリス	1999.08.05
国立ナポリ大学オリエンターレ	イタリア	2011.01.11
コッレージョ・ヌオーヴォ	イタリア	2013.03.25
‘サピエンツァ’ローマ大学	イタリア	2012.07.12
先端研究国際大学院大学	イタリア	2012.06.04
ウィーン工科大学	オーストリア	2002.12.05
リンショーピン大学	スウェーデン	2012.01.12
スロバキア工科大学	スロバキア	2003.03.04
カレル大学	チェコ	2004.09.07
ケルン大学	ドイツ	2010.03.18
パーギシェ・ブッパタル大学	ドイツ	2002.02.24
ブレメン応用科学大学	ドイツ	2011.01.21
セントリア先端科学大学	フィンランド	2009.12.01
タンペレ大学	フィンランド	2003.02.13
ストラスブール大学	フランス	2002.07.05
パリ・ディドロ（パリ第7）大学	フランス	2008.02.01
パリ市立工業物理化学高等大学	フランス	2014.10.08
フランス研究開発機関	フランス	2014.11.24
クレルモン・オーベルニュ大学（旧ブレーズ・パスカル（クレルモン第2）大学）	フランス	2009.08.28
ボルドー第一大学	フランス	2011.03.01
ヨーロッパ理工学院パリ・デジタル	フランス	2015.11.09
イノベーション大学院		
ワルシャワ大学	ポーランド	2010.02.10
ブカレスト大学	ルーマニア	2009.08.03
トムスク国立教育大学	ロシア	2002.07.03

※協定校は随時更新されますので、最新情報は以下の大学HPにてご確認ください。

<http://www-w.ao.ocha.ac.jp/intl/partners/>

(8) 転学部及び転学科

学部内の他学科等または他学部への転入（以下「転学部・転学科」という）を考えている学生は、まずは学年担当の教員等に相談してください。所属の学科や転入希望先の学年担当教員、学科長等が相談に応じます（これらの教員の連絡場所や連絡方法が分からないときは、学務課にお問い合わせください）。

転学部・転学科の手続きなどの取扱は、次のとおりです。学務課が窓口になっています。できるだけ早い時期に願い出てください。

- ①転学部・転学科を申し出ることのできる学生は、転学部・転学科の時期において在学1か年以上となる見込みのものとなります。

転学部・転学科の期日は、4月1日とします。

- ②「転学部・転学科願」は所定の様式により、学務課（学生センター棟1F）に前年度12月28日までに提出すること。
 転学部・転学科受験許可は、受入れ学科等の了承を得た上、1月の所属学部教授会の議を経るものとします。
 この受験許可にあたっては、受入れ学科等の収容人員などの事情が考慮されます。
- ③受験許可の場合の試験期間は、1月下旬より2月上旬までの間に行ってください。
- ④転学部・転学科の可否の判定は、次の各号を総合判定し、受入学部教授会の議を経て決定します。
- ・ 入学者選抜試験の成績
 - ・ 在学中の成績
 - ・ 転学部・転学科試験成績
 - ・ 面接
- ⑤転学部・転学科の可否は、本人に通知します。
- ⑥転学部・転学科が認められた者の在学期間は、受入学部教授会の議を経て決定します。

転学部・転学科願						
		平成	年			
		月	日			
お茶の水女子大学長 殿	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">学 科 長</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%; text-align: center;">学 年 担 当</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> </table>	学 科 長		学 年 担 当		
学 科 長		学 年 担 当				
_____	学部	_____	学科			
_____	氏名	_____	平成			
_____	(〒)	_____	年度生			
_____	連絡先	_____	TEL ()			
_____	(TEL	())			
<p>下記理由により _____ 学部 _____ 学科 _____ へ 転学部・学科したいので許可くださるようお願いします。</p>						
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; min-height: 100px;">理 由</div>						
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; text-align: center;">学 部 長</td> <td style="width: 25%;"></td> <td style="width: 25%; text-align: center;">学 務 課</td> <td style="width: 25%;"></td> </tr> </table>	学 部 長		学 務 課	
学 部 長		学 務 課				

(9) 学費

①授業料は、年額（535,800円、平成29年4月1日現在による）を半期ごとに納入していただきます。納入方法は、口座振替（自動引落）または銀行振り込みとなります。（事故防止の観点から、原則窓口における現金受付は行いません。）

口座振替（自動引落）の場合は、授業料預金口座振替依頼書により登録された口座から下記指定日に自動引落を行いますので、前日までに登録した口座に入金願います。

銀行振り込みの場合は、本学指定口座に下記期限までに振り込んでください。（なお振込みの際の手数料は本人負担となりますので、ご了承ください。）

前期分	口座振替 5月27日
	銀行振込 5月中
後期分	口座振替 11月27日
	銀行振込 11月中

②経済的理由により、授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者に対し、半期ごとに選考の上、授業料の全額または半額を免除、あるいは授業料の徴収を猶予する制度があります。

■ 申請資格

本学学部生または大学院生であって、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者。

※ 原則として、標準修業年限を超過している者は免除の対象となりません。ただし、特別な事由があると認められる者を除きます。

詳しくは学生・キャリア支援課にお問い合わせください。

(10) 学籍簿変更手続き

学生センターでは、入学時に皆さんに提出してもらった学籍簿を基に学生証、在学証明書、通学証明書など各種証明書類の発行や卒業・修了時に授与する学位記を作成しています。学籍簿に記載した住所、保証人、本籍などを変更するとき、あるいは改姓をしたときは、各変更届を必ず提出してください。特に住所は各種証明書類の発行や緊急の連絡の際に必要なことから、変更したときは住所変更届を速やかに学務課教務担当に提出してください。変更届の用紙は学務課にあります。

(11) 休学・退学・復学手続き

さまざまな事情により、休学や退学をしなければならない場合は、各自所属する学科などの学年担当や指導教員とよく相談の上、学務課教務担当で手続きを行ってください。休学可能な年限や在学可能な年限は次表のとおり各所属で異なるので、注意してください。

課程等	修業年限	在学年限 (修業年限×2)	休学年限 (累計)	在学年限 (計)
学部	4年	8年	4年	12年
3次編入学	2年	4年	2年	6年
博士前期課程	2年*	4年*	2年	6年*
博士後期課程	3年	6年	3年	9年

※ 長期履修制度を利用する場合、修業年限・在学年限・在籍年限については、*印の年数に延長する年数を加える（休学年限は変わらない）。（注）休学期間は、卒業・修了の要件としての修業年限に含まれない。

(1) 公式メールアドレスについて

大学が皆さんに与える公式メールアドレスには大学からのお知らせや、非常時の確認などのEメールが配信されます。大学内だけではなく自宅からも見ることができますし、設定することで携帯へ転送することも可能ですので、常にチェックできるようにしておいてください。利用方法については情報基盤センターなどでご確認ください。

公式メールアドレスは以下のアドレスです。

g (学籍番号) @edu.cc.ocha.ac.jp

※学籍番号部分には自分の学籍番号が入ります。

(2) 本学ホームページの紹介 <http://www.ocha.ac.jp>

大学で行われている研究やシンポジウムなどの告知が数多く発信されています。履修に関することや授業のシラバス、行事予定なども確認することができます。

また、奨学金や授業料免除、学生寮のことなど最新情報が掲載されていますので、積極的に活用してください。

大学ホームページで確認できる一覧

学 生 生 活 関 係	<input type="checkbox"/> 奨学金 <input type="checkbox"/> 授業料免除 <input type="checkbox"/> 授業料 <input type="checkbox"/> 学生寮 (国際学生宿舎、小石川寮、お茶大 SCC) <input type="checkbox"/> 課外活動 (届出、貸出物品一覧など) <input type="checkbox"/> 学園祭 <input type="checkbox"/> 学生相談室 <input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> キャリア相談 <input type="checkbox"/> ピアサポートプログラム <input type="checkbox"/> 拾得物・遺失物 <input type="checkbox"/> 後援会
履 修 関 係	<input type="checkbox"/> 休講情報 <input type="checkbox"/> 教室変更 <input type="checkbox"/> 時間割変更 <input type="checkbox"/> インフォメーション <input type="checkbox"/> 履修登録日程 <input type="checkbox"/> 成績通知日程 <input type="checkbox"/> 休学・復学・退学の手続き <input type="checkbox"/> シラバス <input type="checkbox"/> 教務年間日程 <input type="checkbox"/> 教員免許など各種資格取得 <input type="checkbox"/> 学部・院教育研究者情報 <input type="checkbox"/> 各学部・大学院紹介 <input type="checkbox"/> 科目等履修生、研究生、聴講生の募集 <input type="checkbox"/> 証明書発行の手続き
そ の 他	<input type="checkbox"/> 国際交流 (留学) <input type="checkbox"/> 本学の歩み <input type="checkbox"/> 同窓会・後援会・生活協同組合 <input type="checkbox"/> イベント情報 <input type="checkbox"/> 公開講座 <input type="checkbox"/> セミナー案内 <input type="checkbox"/> 大学刊行物 <input type="checkbox"/> 図書館、情報基盤センターなど各種センター利用案内

◎印の情報は携帯電話でも確認することができます。

(3) 学生ポータルサイトの紹介

大学ホームページ以外にも、学内はもちろん学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設しています。休講情報や教室変更など授業に関する情報や学生生活上の重要な情報を随時掲載していますので、毎日必ずチェックしてください。

パソコン用 <http://tw.ao.ocha.ac.jp>

携帯電話用 <http://tw.ao.ocha.ac.jp/k/>

※なお、学生ポータルサイトへのアクセスには入学時に配布した「お茶大アカウント」が必要です。

(4) Facebook・Twitter

企画戦略課 (広報担当) では、お茶の水女子大学の公式FacebookおよびTwitterを用いて情報を発信しています。ぜひファンやフォロワーになって最新情報をチェックしてみてください。

[Facebook] <https://www.facebook.com/ochadai>

[Twitter] アカウント : OchadaiNews <https://twitter.com/OchadaiNews>

(5) 学生証 (ICカード)

学生証は大学の内外に対してお茶の水女子大学の学生であることを証明するものであり休日および夜間の大学施設への入退館、図書館の利用、定期検診の受診、各種証明書の発行などにも学生証が必要です (発行までに半月~1カ月程度かかります)。

■ 注意事項

- ① 本証は常に携帯し、必要に応じて提示しなければならない。
- ② 本証を更新するとき、または退学などによって学籍を離れたときは、返却すること。
- ③ 本証を紛失したときは、直ちに学生・キャリア支援課に届け出ること。
- ④ 本証は、他人に貸与または譲渡することはできない。

■ 再交付

紛失または著しく破損した場合は、直ちに学生・キャリア支援課で再交付の申請手続きをしてください。その際、写真と印鑑が必要となります (4cm×3cmサイズ)。

改姓などの場合は、再交付手続きと同時に氏名などの変更手続きを行う必要がありますので、学生・キャリア支援課および学務課まで届け出てください。

■ 更新手続き

留年、休学などにより、本証の有効期限を超えて在学する場合には年度末に、学生・キャリア支援課で更新手続きを行ってください。

(6) 諸証明書の発行

学生が卒業見込証明書、成績証明書を希望するときは、学生センター棟2Fに設置されている自動発行機で受けとることができます。そのほかの証明書や卒業後に卒業証明書等を希望するときは、学務課 (学生センター棟1F) 備付けの「証明書交付願」に記入しなければなりません。

(7) 教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、学年担当教員や学務課 (学生センター棟1F) に問合わせてください。事務担当窓口で解決できないときは、委員会や教授会等に諮りますので、学務課に相談してください。

(8) 教学IR・教育開発・学修支援センター

「複数プログラム履修」に関する履修相談、GPA制度、カラーコードナンバリングに関する相談等、その他、総合的な学修相談、学修の支援を行います。

(9) 国際教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施します。

(10) 外国語教育センター

コア外国語教育の履修指導、本学企画の海外語学研修 (単位認定される) への協力 (研修先の選定など)、ランゲージ・スタディ・コモンズ (共通講義棟3号館101~103室) での外国語の自習指導などを行います。また、文教育学部言語文化学科と協力して国内語学キャンプ (イングリッシュ・キャンプ) を企画・実施します。

(11) 掲示の場所

事務から学生に連絡する事項は、学生ポータルサイト及び掲示板に掲示します。又、学部に関することは、各学部の掲示板に掲げることもあります。見落としのないよう、毎日一度は掲示に注意してください。

(12) 窓口別連絡先

部署名	TEL	メールアドレス	窓口取り扱い時間	場 所
学 務 課	03-5978-5141	kyomu@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 1 階
学生・キャリア支援課	03-5978-5147	gakusei@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 2 階
国 際 課 ○外国人留学生に関すること ○海外派遣に関すること	03-5978-5143 03-5978-5722	ryunai@cc.ocha.ac.jp ryu@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	学生センター棟 3 階
財 務 課 (経 理 担 当)	03-5978-5119	keiri@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	大学本館 1 階 114 室
施 設 課 (施 設 管 理 担 当)	03-5978-5125	kanzai@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	大学本館 1 階 119 室
施 設 課 (環 境 安 全 担 当)	03-5978-5790	anzen@cc.ocha.ac.jp	平日 8 時 30 分から 17 時	大学本館 1 階 119-2 室
保 健 管 理 セ ン タ ー	03-5978-5156	Hp-c-health@cc.ocha.ac.jp	平日 9 時から 17 時 (12時から13時を除く)	保健管理センター (食堂となり)
図 書 館			平日 9 時から 21 時 (授業のない期間は9時から17時) 土 10 時から 18 時 (夏・冬・春期休業期間中は閉館) 日 13 時から 18 時 (毎週ではありません) 他機関からの図書の取り寄せに ついては、月～金9時から17時 (12時から13時を除く)	図書館
情 報 基 盤 セ ン タ ー	03-5978-5885		平日 10 時から 17 時	情報基盤センター事務室
学 生 相 談 室		gsoudan@cc.ocha.ac.jp	平日 10 時から 16 時	人間文化創成科学研究科 2 階 208 室、209 室
ハ ラ ス メ ン ト 等 人 権 侵 害 相 談 室	03-5978-5936	shsoudan@cc.ocha.ac.jp	火曜を除く平日 10 時から 17 時	保健管理センター 1 階
学生・キャリア支援センター		care-advis@cc.ocha.ac.jp	平日 9 時から 17 時	学生センター棟 2 階
教 学 IR・教 育 開 発・ 学 修 支 援 セ ン タ ー	03-5978-2047	l-sc@cc.ocha.ac.jp	学生ポータルサイトに掲出	学生センター棟 1 階
国 際 教 育 セ ン タ ー ○受入：外国人留学生対象 ○派遣：海外留学希望者対象			平日 10 時から 17 時 (夏・冬・春期休業期間中は閉室) 平日 10 時から 17 時	留学生相談室 (共通講義棟 3 号館 5 階) 学生センター棟 3 階
パ ソ コ ン 相 談 担 当	03-5978-5354	pc-skillup@cc.ocha.ac.jp		

学生関係の窓口業務と諸手続き一覧

担 当 窓 口	手 続 名	期 限
学 務 課 各 学 部 担 当	履修相談、学業成績、授業時間割(休講・変更)・試験・補講	その都度
	履修登録	別に指示
	追試験願	1 週間以内
	※卒業(見込)証明書	4 日前
	※成績証明書	4 日前
	転学部・転学科願	前年度 12 月 28 日まで
	他大学等において修得した単位等に係る認定願	その都度
	科目等履修生 研究生関係	科目等履修生・研究生・特別聴講学生受付 単位修得証明書発行
学 務 課 教 務 担 当	教職関係(教員免許状・教育実習)	その都度
	そのほか資格(学芸員課程)	〃
	教育職員免許状一括申請受付	別に指示
	教育実習履修届	別に指示
	教員免許状取得見込証明書発行	4 日前
	単位修得証明書発行	14 日前
身上異動関係	住所変更・身分異動届	その都度

学 務 課 教 務 担 当	身上異動関係	休学願（復学願）	〃
		退学願	〃
		保証人変更届	〃
国 際 課	外国人留学生関係	外国人留学生に関する事（奨学金・在留資格・証明書等）	その都度
	海外留学関係	海外留学に関する事	〃
財 務 課 (経 理 担 当)	授業料納付	授業料に関する問い合わせ	その都度
		授業料の納付領収書発行	その都度
施 設 課 (施設管理担当)	施設使用	志賀高原体育運動場・館山野外教育施設使用申込書	その都度
施 設 課 (環境安全担当)	施設使用	自転車（バイクを含む）駐輪許可申請に関する事	その都度
情 報 基 盤 セ ン タ ー	パソコン・ネット ワーク利用	学内でのコンピュータ利用に関する相談・回答	期限なし
		お茶大アカウントに関する事	〃
		パソコン活用のための学習支援・相談・回答	〃
		個人利用パソコンの貸出	その都度
学 生 ・ キ ャ リ ア 支 援 課	学生生活関係	各種届け出・物品貸し出し	その都度
		拾得・遺失物	〃
		掲示物届け出	〃
		下宿・アパート紹介	〃
		学生証（再発行含む）	その都度
		※在学証明書	その都度
		※学割証	〃
		通学証明書	〃
	課外活動関係	学生サークル・課外活動	
		徽音祭	
		課外活動施設	
		団体設立届	その都度
		集会届	〃
		ビラの配布、署名運動届け出	〃
		登山届	〃
		テニスコート利用届	〃
	ボランティア活動参加	〃	
	奨学金・ 授業料免除・ 学資貸付関係	奨学金（日本学生支援機構、地方公共団体、学内奨学金、その他）	
		奨学生願書	掲示の都度
		授業料免除申請書	〃
		授業料徴収猶予（月割分納）申請書	〃
	寮関係	学資貸付金申し込み	その都度
		学生寮（国際学生宿舎・小石川寮・お茶大 SCC）の事務	
		入寮願	その都度
		退寮届	〃
	キャリア支援関係	進路・キャリア相談	その都度
		就職情報・資料収集	〃
家庭教師・アルバイト		〃	
進路登録		〃	
推薦書		〃	
保険関係	学生教育研究災害傷害保険	〃	
学 生 相 談 室	保健関係	心理教育プログラム（グループワーク等）	〃
個人相談		〃	
ハラスメント等 人権侵害相談室		セクハラ・パワハラ・アカハラ等人権侵害への相談窓口	〃
保 健 管 理 セ ン タ ー		健康相談・体調管理など	〃
		※健康診断書	〃
教学 IR・教育開発・ 学修支援センター		総合的な学修相談、学修指導などの支援	その都度

※自動発行機で発行可能（卒業証明書は卒業見込証明書のみ発行可能）